

維持

継承

活用

のために

いろど

京都を彩る建物や庭園

彩るリスト

2026 | 令和8年3月発行



インターネットからも
ご覧いただけます



“京都を彩る建物や庭園”制度について

京都市では、市民の皆様が京都の財産として残したいと思う建物や庭園を、公募によりリスト化する“京都を彩る建物や庭園”制度を実施しています。これは、所有者のたゆまぬ努力により、世代を超えて継承されている建物や庭園を、京都の歴史や文化の象徴として市民ぐるみで残そうという気運を高め、維持・継承・活用を図るものです。

市民の皆様から推薦のあった建物や庭園は、審査会を経て、“京都を彩る建物や庭園”に「選定」されます。また、選定されたもののうち、特に価値が高いと認められるものについて「認定」いたします。

※現状変更や所有権移転に対して、何らかの義務を課すものではありません。

“京都を彩る建物や庭園”に選定・認定されると

1. 「選定証」・「認定銘板」の授与

選定については、北山杉で作成した選定証をお渡しします。

認定については、書家の杭迫柏樹(くいせこはくじゅ)氏(京都市文化功労者)に揮毫いただいた「彩」の文字を表現した認定銘板をお渡しします。



選定証(木製)

2. 「所有者向け研修会」の開催

所有者が抱える悩みや知恵を共有いただき、更なる維持・活用を図るための知見を深める機会を提供いたします。

3. 「彩る通信」の発行

各所有者の取組事例などを紹介する機関紙「彩る通信」を発行します。



認定銘板

“京都を彩る建物や庭園”の推薦、審査及び選定状況

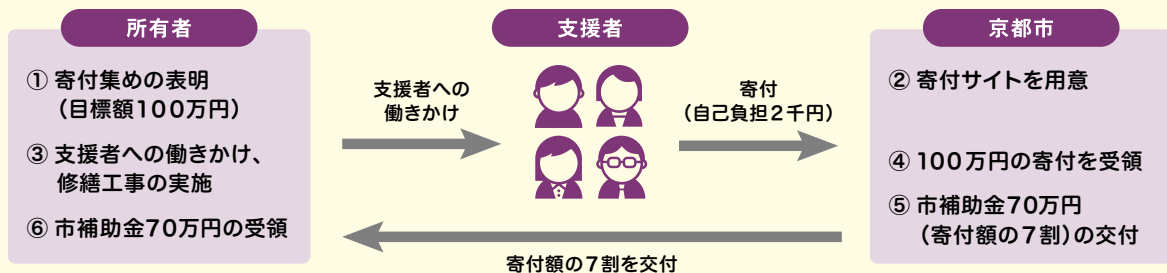
平成23年11月に公募を開始し、これまでに市民の皆様から推薦された約900件の建物や庭園を審査会で審査し、所有者の同意を得た630件を選定、このうちの260件を認定いたしました。(令和8年3月現在)

ふるさと納税を用いた修理支援制度

ふるさと納税を用いた「Arts Aid KYOTO制度」(京都市連携・協働型文化芸術支援制度)を活用した支援制度を、“京都を彩る建物や庭園”で認定された建物や庭園に使えます。

所有者の寄付集めを京都市が伴走支援して、支援者からの寄付の一定額(寄付金の7割)を、建物や庭園の修繕に充てることができます。

制度のイメージ(例:70万円の修繕費が必要な場合)



- 各建物・庭園については、個人住宅も多いことから、公開されていないところが多いです。また、所在地に関する情報について、公開されているところのみお答えさせていただきます。
- 所有者からいただいた公開等の情報は、随時、ホームページに掲載します。

<https://kyoto-irodoru.city.kyoto.lg.jp/>

< 本事業は宿泊税を活用しています。 >



行政区別リスト

北 区	2
上京区	7
左京区	12
中京区	20
東山区	26
山科区	30
下京区	32
南 区	36
右京区	38
西京区	42
伏見区	44

-
- リスト公表に同意を得たものを掲載しています。
 - 各建物・庭園については、公開されていないところがほとんどです。
 - 各建物・庭園の紹介文は、応募時推薦文からの抜粋です。
 - 区ごとに認定・選定を、それぞれ選定番号順で掲載しています。

マークの見方

- 認定** …… 認定された建物・庭園
- NEW** …… 新たに選定・認定された建物・庭園
- 文** …… 文化財（建造物、名勝）に指定・登録されている建物や庭園
- 景** …… 景観重要建造物、歴史的風致形成建造物又は歴史的意匠建造物に指定されている建物
- HP** …… 物件に関するホームページがある場合

北区



認定 一文字屋和輔

長保2年(1000)創業の今宮神社の門前であぶり餅を売る茶店。建物は、古いもので約400年前と伝えられている。敷地の北西角に庭がある。

景

第1-001号



認定 紙屋川庭園

かつて西陣の織屋さんが日本や世界の人々の散策や交流を通じて、古代より続く日本の美の発信地にするとの思いで造り続けられたと言われる素敵な庭。

第1-003号



認定 しょうざん光悦芸術村

庭園は料亭の和風建築の横を流れる小川、樹木の茂みや苔むした斜面から造られている。台杉の庭や、紅葉の季節には両岸から覆いかぶさるように染まる紅葉が見もの。

HP

第1-004号



認定 杉江家

昭和2年(1927)に建替えられている。庭園の石や灯籠は100年以上前のもの。石の中には、今では手に入らない鞍馬石等の貴重なものもある。

第1-005号



認定 速水 澄源居

春は奥庭の桜、初夏はもみじの新緑とみずみずしい青苔、秋は燃えるような紅葉、冬は静寂の中の雪景色として四季折々、様々な面を露地・庭が見せてくれる。

景 HP

第1-006号



認定 松野家

約200年前に建築。40年程前の新聞に「典型的な武家屋敷」として取りあげられた。敷地内には、「茶屋四郎次郎邸跡」の石碑がある。

第1-007号



認定 松野醤油本店

創業は文化2年(1805)。醤油醸造場だけでなく、住まいも兼ねており、南面に庭を配し、天井を高くして、涼しく暮らせる工夫がされている。

HP

第1-008号



認定 かざりや

江戸時代創業の今宮神社の門前であぶり餅を売る茶店。建物は築後450年位といわれている。銀木犀や紅葉で彩られる庭には「水琴窟」がある。

第1-073号



認定 旧北山丸太会社倉庫

磨き丸太の加工・乾燥・保管に用いられてきた。二階・中三階・三階を組み合わせた独特の外観。磨き丸太の天然乾燥のためのテラスが珍しい。

第2-001号



認定 紫明会館

外観は平滑な意匠であるがスパニッシュを基調としたデザイン。建築後大きな改変は行われておらず、戦前の雰囲気をそのまま残している。

文 景

第2-002号



認定 中川八幡宮社

室町以前に創建され、大火により焼失も明治28年(1895)に再建。境内にある白杉は推定500年を数えられる。山の傾斜地に建ち、鎮守の杜として山の神々を祀ったという由緒にふさわしい趣を持っている。

第2-048号



認定 井関家

明治に増築された3階部分は、四面が開く望楼風の建物となっている。枯山水の庭園には、おがたまの木や石灯籠があり、また、手水鉢の前には龍の口と呼ばれる排水口などが設けられ、先人の知恵が随所に見られる建物と庭園である。

文

第3-031号



認定 梅辻家

上賀茂に残る唯一の賀茂七家であり、主家と書院から成る。主家は上賀茂神社の鳥居を越えない切妻造りの屋根とし、書院は江戸時代に宮中から御学問所を移築したとの言い伝えがある。

文 景

第3-032号



認定 聖ヨゼフ修道院門の家

門は煉瓦造、門番小屋は煉瓦壁と木造部が特徴的であり、中世的な意匠を持っている。全く老朽化を感じさせない堅固な建物で、周囲の歴史的な景観を醸し出している。

文

第4-001号



認定 神光院

神光院は京都三大弘法のひとつとして知られる。本堂は文政12年(1829)の建築である。明治の廃仏毀釈により一時廃寺となったが再興した。境内には、本堂、中興堂のほか、太田垣蓮月が晩年を過ごした蓮月庵が残る。

文 景

第4-021号



認定 本野精吾自邸

モダニズム建築の先駆として知られる本野精吾氏の自邸。中村鎮式コンクリートブロックを採用した本野氏作品の最初の住宅である。コンクリートブロックをむき出しにした外観や玄関、門に使用されている煉瓦が印象的である。

文

第4-022号



認定 岩井家

雲ヶ畑に現存する江戸時代末期の建築で、木造入母屋造の主屋は、室内はいろりのすず跡で黒光り、大黒柱、おくどさん、太い梁、伏見人形のほていさん等、当時の雰囲気そのまま残る。

文

第5-018号



認定 和幸庵

昭和28年(1953)以前に福徳銀行創設者が材木商から買い取った約190坪の邸宅で、能楽や茶道・華道などの伝統文化を楽しむ活動の拠点となっている。

HP

第5-020号



認定 岐美家

昭和10年(1935)頃に建築された住宅建築。表門、主屋、離れ、土蔵からなる。主屋は庭に面して雁行して建てられ、南東角に洋館を設ける。数寄屋、洋風、寺院建築風の意匠を用いた、施主の趣味が感じられる建物である。

文

第6-030号



認定 鷺田家

昭和11年(1936)に建築された木造2階建の数寄屋風住宅。中廊下を挟み接客空間と日常生活空間に分かれる平面形式で、通り側には洋風応接間も備える。玄関へのアプローチには、躰居や織部灯籠を用いた庭が設けられている。

文

第6-031号



認定 櫻谷文庫

大正2年(1913)、日本画家木島櫻谷の自宅として建てられた住宅で、広大な敷地に和館、洋館、画室が建つ。洋館は、和洋を折衷した独特のデザインを用いる。画室は64畳敷きの大きな部屋で、小屋組は木造のトラスとなっている。

文 景 HP

第7-002号



認定 小林家

昭和39年(1964)、増田友也設計により建てられた住宅。外観はピロティや打ち放しコンクリートの壁面などル・コルビュジエを思わせるが、室内は襖や障子を用いた和の意匠が用いられている。

文

第7-003号



認定 高田家(博真社)

昭和6年(1931)に建てられた住宅で、北側は洋館、南側は和風、地下には遊戯場がある。和洋の空間ともに上質で、家具、備品、壁紙、襖などは、建築当時に近い状態で保存されている。

文 景

第7-004号



認定 今宮神社

長保3年(1001)創建の神社。現在の社殿は西陣の町衆を中心に明治35年(1902)に再建された。南参道と楼門は大正期に、参道の大きな鳥居は昭和3年(1928)に建てられた。

文 景 HP

第7-024号



認定 岩戸落葉神社

小野郷の神社。巨大な岩の前に岩戸社(小野上村の氏神)と落葉社(小野下村の氏神)が祀られている。境内には4本のイチヨウの大木が立ち、紅葉が美しい。

第8-001号



認定 旧森菅家

林業で栄えた中川の住宅で、明治の大火のあとに建てられた。丸太を磨くイケ、磨き丸太の加工、乾燥、保管のための倉庫など、中川林業の暮らしの様子を伝えている。

文

第8-003号



認定 日下部式部家

小野郷の北山型民家。明和9年(1772)に建てられた。小野郷は古来より天皇家の御料地で、室内には献上品を整えるための金物や饗応のための丸炉(がんろ)などがある。

文

第8-004号



認定 福田家

区画整理事業で生まれた小山に昭和7年に建てられた近代洋風住宅。煉瓦の門や塀、赤い屋根瓦、クリーム色の外壁が目を引く。アーチ窓、玄関ポーチなどのデザインが凝っている。

第8-005号



認定 藤井家

昭和7年(1932)に建てられた住宅。東棟と西棟がつながっており、東棟西棟の1階2階それぞれに座敷がある。庭は石組で高低差をつけ、多様な植栽が植えられている。

景

第8-006号



認定 日本福音ルーテル賀茂川教会

ヴォーリスが設計した教会で、昭和29年(1954)に建てられた。礼拝堂は祭壇上部のアーチが印象的で、木の小屋組、白い壁、木の腰壁で囲まれた温かみのある空間である。

HP

第8-026号



認定 京見峠茶家

西の鯖街道沿いに建つ。江戸時代には旅籠だった。昭和30年(1955)頃に茶屋を開業したが数年前に閉店。室内には、おくどさん、古文書、民芸品など貴重な品々が残っている。

第8-030号



認定 旧藤ノ森湯

昭和5年(1930)に銭湯として開業。外観正面の腰壁や浴室にマジョリカ風タイルが使われているのが特徴。銭湯は廃業し、現在はカフェとして活用されている。

文 景

第8-050号



認定 船岡温泉

地元だけでなく観光客にも人気の銭湯。大正12年(1923)に開業し、開業当初は、料理旅館船岡楼と、その附属施設として、船岡温泉、理髪店が建てられた。

文 景

第8-051号



認定 西川家

金閣寺の近くに建つ木造2階建ての住宅。外観は、水平線を強調した深い軒や丸窓など、モダニズムのデザインである。室内は和室と洋室がバランスよく配置されており、現代の生活にも適している。

文

第8-052号



認定 小西家

南と東に豊かな庭があり、よく手入れされ、四季折々に美しい。創建当時の趣を色濃く残している。

第9-005号



認定 牧野家

大正時代に建てられた旧衣笠園の住宅で、前庭と中庭がある。牧野家は、昭和20年(1945)頃、甲子園の自宅が焼失したため、この地に戻った。

第9-006号



認定 日下部大助家

小野郷の民家。新座敷は大正時代に、柱から建具まで1本の北山杉の巨木から建てられたと伝わる。

文

第9-022号



認定 日本聖公会京都復活教会

昭和11年(1936)に建てられたヴォーリス設計による教会。礼拝堂は、装飾的な木製トラスが特徴。通りから見る鐘楼はランドマークにもなっている。

HP

第10-001号



認定 カトリック衣笠教会

昭和25年(1950)に創立したカトリック教会。旧聖堂は昭和27年(1952)、新聖堂は昭和33年(1958)に献堂された。新聖堂建設には祇園の芸妓からアメリカの大富豪夫人となった「モルガンお雪」と呼ばれる女性が大きく尽力した。

HP

第10-041号



認定 井上家

等持院の地に建つ民家建築。主屋は近世に遡る建物で、元は茅葺であったが、大正14年に等持院撮影所からの出火により屋根が焼損した際にトタン葺としたと伝わる。敷地内には門、土蔵、土塀が残り、旧家の屋敷構えが残されている。

第12-002号



認定 旧三谷祐幸家

洋画家・国盛義篤の居宅兼アトリエとして、昭和10年に建築され、その後、関西美術院の理事をつとめた洋画家の三谷祐幸に引き継がれた。北側に大きな窓を開け、天井の高いアトリエが設けられている。

第12-003号



宗蓮寺

北山杉や紅葉の木に囲まれた山寺。台杉の庭園がありその根元には山地に生息する野草が花を咲かせる。書院から眺める北山杉の借景には心が癒される。

第2-003号



上田家

中川地域に2軒ある茅葺住宅の1軒で、明治よりも古い時代の建築。枝垂桜等の花々が植えられていた庭には、台杉が植えられ北山らしい風情がある。明治の大火でも焼失せず、維持管理がよくなされ、昔の面影を漂わせている。

第2-047号



中田林業倉庫

戦前に建てられた。川に面しており、磨き丸太の加工場と倉庫として使われてきた。母家も同じ敷地にあり、職住近接となっている。北区役所主催の市民コンテストで第一位となった写真が清滝川とこの倉庫である。

第2-049号



むくもと 棕本家

茅葺にトタンを被せた屋根の住宅で、明治期以前の築。付属の小屋は磨き丸太の加工と作業道具や薪などを保管するために使われてきた。住宅と小屋が良く調和して、北山地域の昔の生活様式や風情をよく残している。

第2-050号



森勘商店倉庫

昭和4年(1929)建築の2階建倉庫。1階の妻側は庇が大きく出ており磨き加工を行う作業場となっている。また、2階の天井はなく長尺の丸太を立てかけられるようにしている。風情のある景観になっている。

第2-051号



森久商店倉庫

昭和11年(1936)建築の北山杉を磨き加工し、自然乾燥させ、販売まで保管する倉庫。周りの木造倉庫群と調和して美しい景観を作っており、磨き丸太生産の全盛時代を髣髴とさせる建物である。

第2-052号



やまじ 山治林業倉庫

中川地域の2階建て倉庫の中で、最も棟が高く、大型の建物。内部は尺長の丸太を立てかけられるように多様な高さが確保されている。2階にはテラスが設けられ、磨き丸太の乾燥場として利用されてきた。

第2-053号



藤本家

中川地域で最も古い民家の一つ。玄関脇には、中川地域では珍しいバツリ床几が備えられる。周りがある苔むした路地、古い木造倉庫、石垣に埋め込まれた地蔵等と調和して美しい景観を醸し出している。

第2-065号



吉水庵 銅閣

旅館にあった茅葺の茶屋を、地元の大工、左官の尽力により移築した建物である。後代の改修と思われる箇所は古式に戻し、茅葺屋根を取り払い、代わりに数寄屋造の三層目を設け、唐破風、鳳凰を据えている。

第3-001号



高桐院

慶長年間(1596~1615)、細川忠興(三斎)が父である藤孝の菩提を弔うため創建された大徳寺の塔頭寺院。方丈や客殿、周囲を紅葉の疎林で埋める庭園等は、三斎の人となりや言い伝えが寺内各所に残されている。

第5-019号



久保家

鴨川の源流の山里、雲ヶ畑に建つ築100年を超える民家。周囲の山々と建物が一つの風景となっており、たなびく煙は懐かしい暮らしを思わせる。

第6-001号



おおきに迎賓館 紫明出雲路邸

加茂街道の近くに建つ近代和風住宅。主屋、洋館、蔵などが建つが、道路からは高塙に隠されている。庭は桜や楓などが植えられ、主屋や洋館などから眺めることができる。随筆家 岡部伊都子が暮らし、執筆活動を行った住宅である。

第8-002号



重山文庫(旧新村家)

広辞苑を編纂した新村出(しんむらゐずる)の旧宅。木戸孝允別邸の一部を移築した建物で、明治初期の趣を残す。現在は重山文庫として、奥座敷などが公開されている。

第8-031号



栂湯

栂野の銭湯。開店から50年以上になる。タイルに描かれた浴室の絵が美しい。現在、このようなタイル絵をつくる職人がいなくなっており、貴重である。

第8-032号



平野の家 わざ 永々棟

大正から昭和に活躍した日本画家 山下竹齋の邸宅兼アトリエとして、大正15年(1926)に建てられた木造の建物。近年、数寄屋大工による保存修理工事が行われ、現在は、茶道教室、いけばな教室、講演会、コンサートの会場として活用されている。

第8-033号



咲耶楼

平楽寺書店を建てた「からき屋工務店」(唐木半七)により建てられた。和室も洋館も良い状態で保たれ、大切に守られていたことがわかる。

第9-001号



京苑

昭和5年(1930)に建てられた近代和風建築の住宅で、室内の各所には、檜、紫檀、黒檀などの木材が使われている。現在は宿泊施設として活用している。

第9-029号



暁雲荘

和館、洋館、八角形の茶室、回遊式庭園を持つ近代和風の邸宅。昭和11年(1936)に建てられた。庭園に面してガラスを多用した開放的な空間が特徴。

第9-030号



河本家(華の庵)

大正初期に建築された木造住宅。庭は、金閣寺庭師 玉根徳四郎の作である。夏季は夏の設え(敷物は網代、建具は葺戸)に取り換えられる。箏曲教授所やコンサート会場として使われている。

第10-003号



眞如寺

大本山相国寺の山外塔頭の一つ。創建は鎌倉時代に遡り、五山十刹にも数えられた名刹。法堂は明暦2年(1656)の建築。仏像や襖絵に加え、春のカキツバタ、秋の紅葉も見どころ。

HP

第10-004号



上賀茂梅ヶ辻町の民家

大正末期に建築された木造住宅。敷地内には通りに面して地蔵が位置し、ムクノキが四季折々の表情を見せる。火袋が丁寧に残され、小屋組を見ることが出来る。

第10-042号



旧秀粹庭園

染色家で呉服商・秀粹の社長であった市田美喜雄が、和服の展示場として造営した庭園。移築された建物が神山を背にした斜面に配置され、庭園内には道祖神などの様々な石造物が配されている。

第11-002号



讃州寺

創建当時は独立した寺だったが、大徳寺塔頭玉林院下に入り、17世紀半ばに現在地に移転した。現在は、方丈、仏殿があり、本尊は地藏菩薩で、鎌倉期の作と伝えられる。毎年8月には地元の人たちが集まり、地藏盆を行っている。

第11-030号



松井家

大正時代に建てられたと聞いている住宅。夏には襖から風が通り見た目も涼しい葺戸に交換し、また季節ごとに掛け軸を掛け替えて季節の変わりを楽しんでいる。

景

第12-018号



鴨井家

鎌倉時代から存在する築100年以上の酒造りも行ってた住宅である。東郷平八郎が狩猟のため宿泊に利用していた。北山杉や太い桧を使用した木造建築で、広い庭のある、見晴らしの良い家である。

第13-001号



菅原家

昭和2年(1927)から8年(1933)頃に建てられたと思われる洋風住宅。木製開口部、レンガ塀、外灯等が当時のまま残っている。貴重な昭和初期の洋館として文化的価値が高いと思われる。

第13-012号



高橋たか子旧宅

昭和13年(1938)に建築された数寄屋風の邸宅で、堀川文鱗らの襖絵や、昔に覆われた日本庭園があり、建築時の雰囲気を残している。小説家高橋たか子の実家で、学生時代及び高橋和巳と結婚後を通り、多くの小説の構想が練られた。二人の自筆原稿や遺品が多数保存されている。

第14-004号

上京区



認定 やくしちょうまちや 薬師町町家

建物は明治初期のもの。オリジナルのステンドグラスなどが施されている。坪庭や中庭は、昼はやわらかい光に包まれ、夜は優美で儼かな雰囲気と違った表情が見られる。

景

第1-013号



認定 まんかめろう 萬亀楼

享保7年(1722)に造り酒屋を創業。安永9年(1780)に茶店を営み料理を供するようになる。主屋は明治5年(1872)の建築。お部屋に生ける茶花は敷地内で育てている。

景 HP

第1-015号



認定 有斐齋 弘道館

江戸中後期の京都を代表する儒者、皆川淇園が創立した学問所「弘道館」の址地とされる敷地に建てられた数寄屋建築。庭は南北にあり、茶庭として使われている。

HP

第1-016号



認定 とんだや 富田屋 田中家

6つの坪庭、2つの井戸、3つの蔵から構成された町家。表屋造りには商売をしながら暮らす知恵が感じられる。住むための行事やしきたりをこなせるように作られている。

文 景 HP

第2-004号



認定 だいち 大市

元禄年間(1688~1704)創業のすっぽん料理店。330年前の建物がそのまま残り、玄関には刀傷や槍の痕がある。帳場の結界などもあり、志賀直哉の暗夜行路など多数の小説に登場している。

HP

第2-054号



認定 be京都

空き家から貸しギャラリー兼イベントスペースとして再生され、「美しい“美”の京都がここにある」という思いをこめ命名された。座敷部分は江戸時代に遡ると考えられる京町家であり、隣接する寺院の山門と連続した良好な景観を形成している。

HP

第4-004号



認定 湯本家

明治期の建築と推定される平家建ての木造建物である。歴史学者湯本文彦が終の住家としたことから、同人に関する研究資料等が多く残されている。

第5-022号



認定 今原町家

住居兼組紐製作場として昭和4年(1929)に建築された表屋造の町家。内外に町家の特徴を残し、2階には洋館風の部屋が配されている。町家や生活文化の継承のため、住まいながら飲食店やイベントに活用されている。

景 HP

第6-002号



認定 北村美術館 四君子苑

数寄屋造の名工北村捨次郎により昭和19年(1944)に建築。進駐軍の接収後、住宅棟はモダニズム要素を含んだ近代の数寄屋として改築された。庭は多彩な石造品を配し、比叡山・如意ヶ岳を望めるなど趣向に富んだものとなっている。

文 HP

第6-003号



認定 太田家 (旧太田喜二郎アトリエ)

大正13年(1924)、洋画家太田喜二郎の住宅として建てられた。設計は藤井厚二。アトリエは太田自身の設計で、光の取り入れ方に画家のこだわりがうかがえる。居間やアトリエは建築当時のままである。

文 景

第7-005号



認定 バザール・カフェ

大正8年(1919)、キリスト教宣教師の住宅として建てられた。設計はヴォーリスで、現在はカフェである。オープンデッキのある庭、室内の暖炉など、建物と食事を楽しめる癒やしの場である。

HP

第7-007号



認定 横山家

西陣に建つ大型の京町家で、明治時代に建てられたと伝わる。建築当時の姿をよく残しており、景観に重要な役割を果たしている。内部の保存状態もよく、火袋の小屋組みも美しい。

景

第7-008号



認定 今宮神社御旅所

三基の御神輿を鎮座する御旅所。現在の建物は、天明の大火(1788)で焼失した後、寛政期(1789～1801)に再建。能舞台では昭和40年代まで今宮御旅能が奉納されていた。

文 景 HP

第7-025号



認定 勝間家

烏丸通沿いに建つ近代和風建築の住宅。昭和2年(1927)に建てられ、烏丸通に高塀と建物が並び、ミセニワ、ツボニワ、ザシキニワを持つ。座敷は書院造りだが、床柱に磨き丸太を使い、柔らかさを生んでいる。

景

第7-026号



認定 大聖寺

永徳2年(1382)、室町御所岡松殿を尼寺としたことにはじまる尼門跡寺院。元禄10年(1697)に現在の地に移る。境内の南に枯山水の庭園がある。建物、庭園、ともに非公開。

文 景

第7-027号



認定 宝鏡寺

応安年間(1368～75)に、光厳天皇皇女 華林宮 惠厳禅尼が開山した尼門跡寺院で、人形寺の名で有名。春と秋に人形展が開かれ、年に一度、人形供養を行なっている。

文 景 HP

第7-028号



認定 筈井家

安土桃山時代の絵師 海北友松(かいほうゆうしょう)とその嫡子である海北友雪(かいほうゆうせつ)ゆかりの町家。江戸時代から明治時代まで、京都の禁裏で御用を務める絵師の家として存続した。現在の町家は明治時代に建てられた。

景

第8-008号



認定 石崎家

大正14年(1925)、藤井厚二が設計した木造2階建ての住宅。保存状態が良く、藤井の住宅に対する設計思想を見ることができる。藤井厚二が設計した住宅で現存する数少ないもののひとつ。

文

第8-034号



認定 山本家(仁風庵)

昭和15年(1940)頃に建てられた近代和風住宅。施主の山本仁三郎は、岐阜で白生地商を営み、大正9年(1920)、京都に店舗を構えた。

文 景

第8-053号



認定 西陣寺之内通の町家

織屋建ての町家。ホテルやマンションの建設が増え、失われつつある西陣の歴史的景観と地域文化を継承するために推薦する。

文

第9-032号



認定 入江家

土間の吹抜け、オクドさんの残る台所、掘炬燵から見る庭が好き。正月に親族が集まり、茶室と座敷を空け放してお雑煮を食べる。親族にとっても大事な建物である。

文

第9-048号



認定 林家

上七軒で最初とも伝わる茶屋「二見屋」を前身とする町家。2階座敷の吉原格子、書院造の表座敷、離れの茶室、中庭など、よく残っている。

文 景

第9-049号



認定 カトリック西陣聖ヨゼフ教会

アメリカ・メリノール宣教会の支援により創設された教会。木造切妻屋根の教会堂は宣教師建築家ウィリアム・ニーリーの設計で昭和24年(1949)に建築。3つのアーチを2本の円柱で支えるエントランスポーチが特徴。

第10-043号



認定 梶田家

明治45年(1912)頃に建てられた表屋造の町家。正面に出格子を設け、揚げ見世を残し、2階は黒漆喰仕上げで虫籠窓を穿つ。表蔵と雑物蔵も残る洗練されたつくりの京町家。

文 景

第11-025号



岩上ホール

昭和30年(1955)頃に建築。織工場を改装した落ち着いた木造の建物。どこか懐かしい外観が、石畳のまちなみと見事に調和している。

第1-009号



おりなすかん 織成館

京都を代表する町家が現存する西陣大黒町の中心的な存在。店の間、前の坪庭、住居そして倉と、昭和初期の代表的な建物。

HP

第1-010号



おりなすしゆくしよ 織成宿所

昭和初期、織屋で財をなした渡邊文七が隠居仕事として、一町内全て借家を建て、借家町が誕生。その中の一つで、会員制の宿泊施設として使われている。

第1-011号



おりなすしゆくしよ 織成宿所 上七軒

日本のお茶屋発祥の地である上七軒で廃業されたバー形式のお茶屋さんを隠れ家的に使用。さすが上七軒と呼ばれるに相応しい貴塚がある。

第1-012号



上木家

表の格子のたたずまいは、昭和初期の典型的な西陣の商家に見えるが、壁紙の裏紙に使われた新聞紙から明治期の建築とも推測される。以前は糸商として使われていた。

第1-074号



大根屋

京都の町並みを作っている格子を始め、種々な要素を多く持っている建物。外観を残しながら、西陣の工場として内部は織機が置けるように高い空間と柱の間は広くとられている。

第1-076号



若山家

間口が広く表蔵があり、虫籠窓、柱横には格式ある家のみ付けのものとの言い伝えがある「斧(こうがい)」が取り付けられている。氏神の祭禮には家を開放して町内の祭道具の飾り場所となるなど風格が感じられる。

景

第3-034号



千本ゑんま堂・引接寺 いんじょうじ

ゑんま堂は、厨子虹梁絵様から17世紀に建立されたと考えられる。近年の火災で、屋根と天井を焼失するが、残された閻魔王とその脇侍をまつる厨子が他にはない迫力を見せる。境内には重要文化財の石造十重塔等の文化財がある。

HP

第4-002号



宮岡家

外観に大幅な改変がなされていたものから、近年、復元工事が行われ、外観や火袋を復元するなど内装に関しても、京町家としての風情を取り戻した。間口5間の大きさから地域の景観に寄与している。

第4-003号



朝日玉姫鶴大明神社 ぬえ

平安時代末期の武将源頼政が鶴という怪鳥を射落し、その射落とされた鶴を祀った神社。主税五ヶ町が協同で管理されており、社を中心に形成されている同町のコミュニティのあり方を後世に伝え残すことも含め大切である。

第5-021号



慈照院

相国寺の塔頭で、桂宮家の学問所として建築された書院(棲碧軒)、千宗旦によって作られた茶室(願神室)や樹齢300年を超える陸船松と称されるクロマツが植わる枯山水式庭園が配されている。

第5-022号



文殊院

承応3年(1654)に伊勢暦の暦師だった浅井長政の末裔が、京都に移建した真言宗醍醐派の寺院。部戸が連なる本堂や庫裏は築150年以上と推定される。風格のある門構えや松の緑の外観、地域の集まりにも使われる庫裏が、地元の人々に親しまれている。

第5-023号



大将軍八神社

北野天満宮の南に建つ神社で、本殿は昭和3年(1928)に建てられた。本殿と拝殿は一体となっており、背面に縋破風がつく。洗練された意匠で、特に鋳金具は見事である。

HP

第7-006号



上七軒 長谷川

上七軒のお茶屋だったが、近年はお茶会や落語会に使用されている。離れの座敷は広く、奥には茶室と土蔵があり、裏庭にはお火焚きさんの祠がある。

第8-007号



すいか 水天満宮

都の水害と火災を鎮めるため、醍醐天皇の勅願で、水天社天神天満宮として延長元年(923)に建立された日本最初の天満宮。昭和25年(1950)、堀川道路拡幅の際に現在の地に移転した。

景

第8-035号



法輪寺

だるま寺の名で親しまれているお寺。臨済宗妙心寺派で、享保12年(1727)に創建された。だるま堂には、奉納されただるま八千体余りが並んでいる。二月の節分には多くの参拝者で賑わう。

景 HP

第8-036号



光照院

長い歴史を持つ尼門跡寺院。延文元年、室町一条に創建され、応仁の乱の後、現在地へ移った。江戸時代、光格天皇から「常盤御所」の称号を賜った。

景

第9-007号



三時知恩寺

数少ない尼門跡寺院。どことなく優しい趣があり、襖絵や調度品など、皇女らしい雅な品々が保存されている。老朽化が進み、援助が必要である。

景

第9-008号



吉田家

大正期は生糸問屋、戦後は医院、現在は設計事務所と、商いの形を変えながら引継がれている町家。地域の方の思い出の中でも生きている。

第9-009号



笹屋町一丁目町内会の町家^{ちやういえ}

江戸時代に建てられた町家(ちやういえ)。地藏盆では正面の平格子を外し、和室にお地藏様を移してお祀りする。今後も大切に受け継いでいただきたい。

第9-031号



石川家

腕木門を構えている町家。専用住宅として建築された昭和初期の様式を伝える貴重な建築物である。

第10-005号



最上稲荷

大正15年(1926)に建造された、岡山県の最上稲荷さんの分院。町内の年中行事の中心であり、地元では「さいじょうさん」と呼ばれ、親しまれている。

第10-006号



佐々木能衣装

能楽の装束を製作する工房。建物は昭和9年(1934)から11年(1936)に建てられた織屋建ての町家である。能楽界にとって重要な存在である。

景 HP

第10-007号



澤井醤油本店

明治12年(1879)創業の老舗醤油店。専門店向けから一般家庭にわたるまで愛用される醤油を製造し続けている。格子や虫籠窓が残る町家の建物。

景 HP

第10-008号



梶田家隠居所

明治末期の建築と伝わる、瓦葺切妻2階建ての梶田家の離れ。特にお茶室は侘び寂びが感じられ、素晴らしい。

景

第11-003号



梶田家貸家

明治末期の建築と伝わる、瓦葺切妻2階建ての町家。虫籠窓や土間、火袋などは当時の姿を残してきれいに改修されている。

景

第11-004号



ささや 篠屋の蔵

文政年間(1818~1830)に建てられたと思われる蔵。家業である西陣織に関する資料や調度品を収蔵し、代々受け継いできた。西陣織の伝統と共に残していきたい。

第11-005号



とり市

戦時中の昭和17年(1942)頃に建てられ、昭和32年(1957)に増改築された木造2階建ての店舗。表構えは妻入りで宮地米三の建築様式そのもの。書院造と民芸建築が融合した付まいである。

第11-006号



矢守家

昭和初期に建てられた高塀のある本二階の町家。鴨川で採取された亀石を使用した中庭(坪庭)や裏庭の残る付まいを残したい。

第11-007号



京都YWCA サマリア館

ヴォーリス設計により建てられた2階建て木造建築。当初はホテルとして利用された。温かみのある魅力的な建物を、地域の方々に親しまれ、人々が出会い交流する場として、大切に維持・活用したい。

HP

第12-004号



矢田家（華笑庵）

大正の終わりに昭和初期に建てられた京町家である。西陣に位置し、かつては織物関係の仕事場としても使用されていた。2階の表側に10畳の広い座敷があり、店の間と密接した営業を行うための動線を確保することに重きを置いた平面構成となっている。

景

第13-002号



太田家

西陣に位置し、明治時代から西陣織の織元であった京町家である。近隣には首途(かどで)八幡宮、本隆寺があり、後鳥羽上皇の退位後の住まい五辻殿(院御所)から、五辻の通り名や町名が残っている。

景

第13-003号

NEW



田中家

明治の終わりに大正初期にかけて建てられた。玄関廻りは土間、壁、天井など、随所に当時の面影が色濃く残っている。特に玄関を入ってすぐの空間、井戸などは、大正初期の造りであると考えられる。

第15-013号



左京区



認定 青山家

京大名誉教授である青山秀夫とその教え子達の思い出の建物と庭。庭の池には川から水が流れ込み、建物と共に風流で歴史的な面持ちがある。

第1-017号



認定 川端彌之助アトリエ やのすけ

洋画家である川端彌之助(1893~1981)のアトリエとして大正14年(1925)に建築。愛用のイーゼルや書籍がそのまま残され、当時の様子を今に伝えている。

文

第1-018号



認定 十一屋 岡村家

十一屋は近年まで鯉料理の専門店として営業。建物は新田街道(今は、鯖街道と命名)に面しており、旧街道のランドマーク的な存在。

第1-019号



認定 真澄寺別院 流響院 りゅうきやう

大正2年(1913)に竣工。数寄屋建築と露地や表庭、芝庭などの複数の要素が組み込まれた自然感ある庭園は、近代別荘庭園の特徴を良く表している。

HP

第1-020号



認定 瓢亭

400年余り前、小さな腰掛茶屋として開業し、天保8年(1837)から料理屋に。建物はくずやと呼ばれる茅葺き屋根の座敷で、庭園は植熊作。

HP

第1-021号



認定 山ばな平八茶屋

約200年以上経つ母屋は商家造りで、庭は昭和初期の造り。陰陽を配置した庭は、四季折々の花がその庭を満たし、季節を存分に感じることが出来る。

景 HP

第1-024号



認定 湯川秀樹旧宅

晩年までこよなく庭を愛でた湯川秀樹(1907~1981)が、昭和24年(1949)に日本人初のノーベル物理学賞を受賞し、最期まで過ごした場所。

第1-025号



認定 吉田山荘

昭和7年(1932)東伏見宮家別邸として建造。重厚感あふれる総檜造りと裏菊紋の格調が織なす和と洋が融合した料理旅館。京都の四季を感じられる庭園を眺めることができる。

文 景 HP

第1-026号



認定 聖護院

寛治4年(1090)白河上皇の勅により創建。天明の大火の際、光格天皇の仮御所となった。狩野派の障壁画、重要文化財の書院、庭の砂紋など目を引きつける。

文 HP

第2-007号



認定 竹中家

「水車の竹中」と呼ばれ、地域のランドマーク的存在の精麦工場であった。母屋と工場の一部と石組の水路が残る。前の小路とともに白川の景観をつくる。

景

第2-008号



認定 玉川家

蔵には5月に行われる八瀬祭の衣装を収める。祭の役を引き受けるためには、道具だけでなく神棚などの空間が必要で、大事に引き継いでいる。主屋は明治6年(1873)に亡くなった当時の主人が建てたと伝わる。水田越しに見える白壁は見事である。

第3-005号



認定 八瀬天満宮社

周囲を巨木に囲まれた八瀬天満宮社は、菅原道真の死後、師である法性房尊意僧正の勧請により建立されたと伝わる。赦免地踊りでは、女装した男性が切子燈籠を頭に載せ、境内の秋元神社に向かう行列が見られる。

第3-009号



認定 鞍馬駅

開業当時の建物で、重層な入母屋形式の和風屋根が背景の山並みに溶け込む風景は、清々しく感じる。また、白壁も印象的で待合室には古典的な趣のある照明があるなど、木造の温もりが感じられる。

第3-035号



認定 八瀬比叡山口駅

古風な印象を見せる駅舎は、開業時から形を変えず約90年間にわたり利用者を見送ってきた。ホームを覆う木造屋根が魅力的であり、波型の軒飾りはホームのアクセントとなっている。

第3-036号



認定 吉村家（松雲荘）

眺望を活かした続き和室と洋風に仕上げられた家族室・食堂がある木造2階建ての住宅である。伝統建築を継承しつつ生活の洋風化を試み、住宅改良運動の傾向と郊外に住宅地が形成され始めた昭和初期の傾向も読み取ることが出来る建物である。

景

第4-006号



認定 ケーブル八瀬駅

洛北の開発と比叡山への登山を目的として、大正14年(1925)に開業した。かつて、西塔橋駅と呼ばれていたこの駅舎には、鉄骨トラス造や妻飾りなど開業当初の意匠が残っており貴重である。

第5-001号



認定 霊鑑寺

書院、本堂の南面に広がる池泉鑑賞式の庭園は、東山連峰の大文字山より西に延びる稜線を利用して造られている。椿の季節には、散椿、日光、紅八重佐助など銘種約30種の花が庭園をうずめている。

文

第5-003号



認定 大野家

本二階建て、瓦葺きで、高塀を持つ大正末期から昭和初期の建物である。京都パラダイス遊園地の跡地であるこの界隈は、同時代に建てられた建物が多く残り、通りの景観は往時の様子を留めている。

景

第5-025号



認定 南禅寺順正

天保10年(1839)に蘭学医として著名な新宮涼庭によって開設された医学校のあった地である。敷地中央の書院や石門は、往事そのままに残る貴重な建物で、庭園も昔の様相をよく留めている。

文 HP

第5-027号



認定 杜若家

約280年の歴史を刻む茅葺の民家。建物南側の庭には、第55代文徳天皇の第一皇子、惟喬親王のお手植えと伝えられている杜若が咲いている。

第6-004号



認定 駒井家

昭和2年(1927)に建てられた、米国人建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリス設計の住宅。建物はスパニッシュ様式で、赤茶色の瓦屋根とスタッコ壁が用いられ、アーチ型の窓、テラス、パーゴラが外観に彩りを添えている。

文 景 HP

第6-005号



認定 太平治家

「太平治」を屋号とする石工の歴史を持つ建物。天保元年(1830)の地震後に再建されたと考えられる主屋奥には、江戸末期や明治初期の大火を免れたと伝わる二つの蔵がある。

景

第6-006号



認定 北白川天神宮

境内は志賀越道沿いの山の中で、本殿と拝殿は山頂付近に建つ。参道は白川に架かる石橋を渡り、山頂へと続く。石橋は白川の石工が手がけたもの。鬱蒼とした森を貫く階段は苔むしており、厳かな雰囲気漂わせている。

景

第7-029号



認定 北白川天神宮御旅所

北白川天神宮の斜め向かいに建つ。志賀越道に面して広場があり、奥に建物が建つ。建物の外壁や軒裏は漆喰となっている。この地域は、幾度も大きな火災があったため、火災に強い建物になったと伝わる。

景

第7-030号



認定 西川家

大正期の遊園地京都パラダイスの跡地に、昭和2年(1927)に建てられた住宅。別邸として建てられ、後に本邸となった。仏間は数寄屋風、応接室は和洋折衷で、数寄屋風の近代和風住宅に洋風意匠が加えられている。

文

第7-033号



認定 上田恒次家

陶芸家の上田恒次が設計した自邸。昭和12年(1937)に陶房を建て、昭和17年(1942)ごろ住居部分を増築。民藝運動の場となった陶芸家の製作と生活の空間を伝えている。

文

第8-009号



認定 小川家

左京区鹿ヶ谷に建つ2階建ての近代洋風住宅。大正11年(1922)に建てられた。設計は武田五一。わが国の鉄筋コンクリート造住宅のさきがけである。武田五一が設計した数少ない現存する住宅として貴重である。

文

第8-010号



認定 小川家別邸

小川為次郎の妻の小川むららが、為次郎の死後、ひとりで住むため昭和9年(1934)に建てられた住宅。設計は藤井厚二、大工は北村伝兵衛など、小川むららが一流の人を集めた。

文

第8-011号



認定 旧喜多家

藤井厚二が設計した住宅で、第4回実験住宅の竣工後の大正15年(1926)に設計された。外部は、屋根、軒、庇がリズムカルで、室内は明るすぎず落ち着いた雰囲気である。

文

第8-012号



認定 旧建部歯科医院

増田友也が設計した鉄筋コンクリート造の診療所兼住宅。昭和28年(1953)に建てられた。小規模な建物にモダニズムの合理性と増田の感性が融合している。

文

第8-013号



認定 ケルガード家

明治37年(1904)、大型林業家の邸宅として建てられた邸宅。花背原地町に建ち、杉や桧を多用している。現在は外国人向けの宿泊施設として活用されている。

第8-014号



認定 松田家

彫刻家松田尚之のアトリエ兼自邸。松田自身が設計し昭和11年(1936)に建てられた。アトリエは死の直前まで厳しい研鑽を重ねた場で、現在は音楽ホールとして活用されている。

第8-016号

NEW



認定 蹴上発電所

日本初の一般供給水力発電所。琵琶湖疏水の水を利用している。蹴上のランドマークである赤煉瓦の建物は明治45年(1912)に建てられた。貴重な近代化遺産である。

文

第8-037号

NEW



認定 夷川発電所

琵琶湖疏水の水を利用する発電所。大正3年(1914)完成した建物は煉瓦造平屋建てで、小規模な建物ながら、窓のアーチや入口両脇の装飾など、丁寧にデザインされている。

文

第8-038号



認定 井口家

昭和元年(1926)、京都パラダイス跡の分譲地に建てられた洋館の住宅。この地域には珍しい洋館で、現在も素敵な姿を見せている。

文

景

第8-039号



認定 丈松庵

下鴨文化村と呼ばれた地域に建つ。同地の素敵家が、大正後期に建てた建物で、日本画家・今尾景祥が昭和27年に居宅として移り住んだ。かつては比叡山を臨めた庭に面した主屋の2階に画室を設けていた。

第8-043号



認定 栖賢寺

南北朝時代に尼崎で開山、昭和7年(1932)に現在の地に移転した禅宗寺院。実業家山口玄洞が寄進し、元京都府技師安井樞次郎の設計による近代和風の寺院である。境内には、本堂、観音堂、鳳凰閣、鐘楼、茶室などが建ち、全体に中世の寺院に範をとった意匠である。

HP

第8-044号



認定 山本家

大正期から昭和期の英文学者で、京都大学名誉教授、山本修二の旧宅。所有者は建物に愛着を持っており、地域の彩りとして残って欲しい。

第9-010号



認定 正願寺

浅井了意が住職を務めた寺で、本堂は江戸後期の建物。街中の狭い敷地に建ち、真宗大谷派の本堂として独特な建築形式。長屋門を持つことも興味深い。

第10-002号



認定 楠部家

陶芸家・楠部彌弼の居宅兼陶房。以前の栗田口の居宅の部材を一部に用い、昭和13年(1938)に建てられた。ろくろ場も残り、往時の製作の様子を伝える。

第10-013号



認定 山口書店

山口書店の創業者・山口繁太郎の居家で、現在は社屋となっている。新棟は山口が同郷で交流のあった版画家・棟方志功の滞在用に、戦前の建物を昭和30年代に改修したもの。

第10-016号



認定 渡邊家

江戸時代に遡るとされる主屋、北の蔵、乾蔵が残る。明和4年(1767)に起きた「源太騒動」は主屋の玄関前が舞台となつたと伝わる。

第10-018号



認定 ^{もあん}茂庵

吉田山山頂付近に営まれた実業家・谷川茂次郎の茶苑に由来する。大正期に建てられた木造2階建ての食堂や2棟の茶室が残る。

文 HP

第10-037号



認定 ^{まつのまんりょう}松乃鱒寮

上田恒次に設計を依頼し、昭和40年(1965)、上田氏自邸の隣に木造2階建てを建てたのが始まり。増築され、城を思わせる豪壮な店舗が完成した。

HP

第10-040号



認定 カトリック高野教会

アメリカ・メリノール宣教会の支援により昭和13年(1938)に創設された教会。伝道館と尖塔状の鐘楼がひとつ目立つ聖堂は昭和23年(1948)に建築。宣教師建築家ウィリアム・ニーリーによって手掛けられた。

HP

第10-045号

NEW



認定 北山荘

昭和17年(1942)に府立京都第一中学校山岳部員らによって建てられた山小屋。戦後、同中学校が鴨沂高校・洛北高校に分散編成替えされ、その山岳部のOB会が維持管理に務め、山を愛する多くの人々の憩いの場となっている。

第10-046号



認定 八瀬かまぶろ温泉ふるさと

昭和29年(1954)開業の旅館。八瀬遊園(1964-2001)開業に伴い、昭和36年(1961)に現在の地に新築移転した。3階建ての本館の設計は、民藝建築家 宮地米三で、黒い古色の材と白い壁が美しく、堂々とした洋風山荘の雰囲気もある。

第11-001号



認定 ^{しげもりみれい} ^{しょうきあん} 旧重森三玲邸 (招喜庵・重森三玲庭園美術館)

江戸期に建てられた吉田神社の社家の邸宅。昭和18年(1943)に、庭園家の重森三玲が譲り受け、庭園や茶室を設けた。書院前の枯山水庭園が印象的である。

文

第11-026号



認定 白河院

呉服業を営んでいた下村忠兵衛の別邸として、大正8年(1919)に竣工した。庭園は、7代目小川治兵衛によって手掛けられたもの。武田五一が設計した和館や表門が残る。

第11-027号

NEW

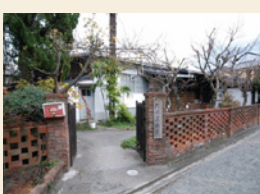


認定 ^{きよふうどう}去風洞

花道の家元「去風流」は、元禄14年(1701)、流祖「去風」により始められた。現在の「去風洞」は大正末期に7世「一草亭」が自宅兼教場として建築し、夏日漱石や九条武子ら近代知識人と生花を通して豊かな交流が展開された。

景

第11-031号



認定 関西美術院

明治時代に西洋画の私塾として画家浅井忠により設立された関西美術院。明治39年(1906)建築で、設計は武田五一。アトリエの採光として理想的な北側に大きな窓を持ち、屋根は片流れの銅板葺き。現在も常時20余名が洋画の研鑽に励んでいる。

文 HP

第12-015号



認定 平安神宮

平安遷都1100年を記念して明治28年(1895)に第50代桓武天皇を御祭神として創建された。朱塗りの柱は雅やかさが感じられる。昭和3年(1928)に昭和天皇大礼を記念して建てられた鳥居の下を車を通るのも珍しい。

文 HP

第12-023号

NEW



認定 日本基督教団 京北教会

建物は信徒の松浦勇太郎の設計により、昭和16年(1941)に建設された。教会創立は明治42年(1909)で100年以上の歴史がある。簡素であたたかい雰囲気の堂内と美しい外観を持つ。

HP

第13-005号

NEW



認定 武田薬品 京都薬用植物園展示棟 (旧田辺邸)

明治41年(1908)に甲南学園・初代理事長であった田辺貞吉が、建築家野口孫市の設計により神戸に建てた邸宅。阪神・淡路大震災で損壊し取り壊しが決定していたが、建築史学会などの努力により、平成9年(1997)に移築・再生保存された。専門家による調査を基に、建築当初の姿を再現して建築している。

HP

第14-005号



本家西尾ハツ橋別邸

創業は元禄2年(1689)。家屋は築約100年。数寄屋建築の座敷・茶室がそのまま残っている。庭は四季折々の顔を見せてくれる。

HP

第1-022号



洛翠

明治末期に7代目小川治兵衛が作庭。庭園内には琵琶湖を模した池があり、周囲には280年前に中国から伝来したとされる画仙堂や茶室「溪猿亭」がある。

第1-027号



大八木家

大正の末期に建てられ約90年の歴史がある。庭園と茶室は当時のままで、茶室から見る庭園の枝垂れ桜は一幅の絵のようである。

第2-006号



八千代

南禅寺参道に面した純和風旅館。100年以上経った草庵茶室に依った建物は、簡素枯淡な趣を持つ。敷地の3分の1を占める庭園は、植治(小川治兵衛)の作庭で四季折々の風情が楽しめ、静寂な時へと誘う。

HP

第2-055号



永楽庵

大正天皇の皇后が発注された茶室正副二棟のうち、副棟が彦根の西田邸に払い下げられ、昭和25年(1950)頃にこの地に移されたものと伝わる。庭は茶室や離れ等の移築を指揮した当主の父の設計で、建築群と一体で高野川河畔の景観を形成している。

第3-002号



きもり 城守家

昭和14年(1939)に城守保養所新館として建てられた。精神病患者が滞在した部屋は床の間付の座敷で、庭にも自由に出入された。岩倉には家族の付き添いなしに預かった歴史があり、「地域において精神障害者を看護する」ことにヒントを与えてくれる。

第3-003号



聖護院ハツ橋総本店 本店

元禄2年(1689)にこの地で創業した。近世等曲の開祖といわれる八橋検校が葬られた黒谷金戒光明寺の参道に茶店を設け、検校の遺徳を偲び、琴の形を象った干菓子「ハツ橋」と名付け販売したのが始まりと言われている。明治には多くの文豪が訪れた。

HP

第3-004号



斉藤家

2階建ての町家で、10年程前に改修され、店舗となっている。通りから窓越しに窺える店内には、オリジナルデザインの洋服や古布の小物等が置かれている。法然院の周辺の落ち着いた雰囲気の中で、雨隣の町家と一体となって町並みを形作っている。

第3-006号



じょうえい 平井常榮堂

元禄14年(1701)に創業し、代々医師と薬の処方とを兼業されていて、明治に入って和漢薬専門店となった。通りに面して間口が広く、虫籠窓のある歴史を感じさせる佇まいで、引き戸を開けると、薬草の香りが鼻をくすぐる。

第3-007号



八瀬かまぶろ

壬申の乱で大海人皇子が背中矢を受け、かまぶろで傷を癒した伝説が八瀬の地名の由来と言われる。かまぶろは外側が土壁、内側が石組で、保温性に優れた造り。江戸時代の16基が、1基のみ現存。見た目にも愛嬌があり、人々からも親しまれている。

景

第3-008号



八瀬童子会宝庫

八瀬童子は、皇族・公家等ともつながりが深く、明治以降は政府から天皇大礼・大喪の篤興丁に任じられた。繪旨や京都所司代の下知状等の八瀬童子会が所蔵する資料は、一部は重要文化財に指定されており、保管していた本倉庫は八瀬の宝と言える。

第3-010号



井ノ口畳店

創業明治3年(1870)の畳店である。昭和2年(1927)の建物で虫籠窓が残る間口の大きい町家である。通りからはイグサの香りとともに畳作りの作業が間近に見え、風格のある看板も相まって歴史を感じさせ、風情を醸し出している。

HP

第4-005号



妙伝寺

江戸時代初期、覚法妙伝和尚の開創によるものとされている。本尊には如意輪観音菩薩が安置された八瀬童子の菩提寺である。毎月執り行う念仏講では後醍醐天皇、近衛基熙、秋元喬知の他、歴代の八瀬恩人を供養している。

第5-002号



大野家

明治期に建てられた木造洋館建ての表屋を持つ建物で、奥には和館が建つ。著名な画家のアトリエとして活用されていたという伝承もあり、岡崎エリアの近代化の歴史を伝える重要な景観要素の一つである。

第5-026号



大槻家

志賀越道に建つ町家で、間口4間半の主屋と2つの蔵、庭、離れからなり、軒裏は防火のため、漆喰で塗りこめられている。大槻家は白川石を扱う石工であった。石工業で賑わった界隈の面影を伝える。

景

第6-033号



内田家

北白川の志賀越道に建つ住宅。白川石、花の栽培などの産業で栄えた歴史と文化のある地域である。表に蔵を構え、表側の深い庇、街道から控えた部分に建つ主屋は、北白川の重要な住宅のひとつと考えられる。

第7-009号



内田家

北白川の志賀越道に建つ住宅で、街道から控えて建てられる。道に面した庭は、石工の作業や、花売りの場として使われたようである。石工、白川女、街道をゆく人々など、にぎわっていた頃を伝える北白川の重要な住宅である。

第7-010号



野仏庵

数寄者上田堪庵が由緒ある住宅や茶室を移築したもので、移築の際に堪庵の好みに改修されている。淀から移築した主屋、茶室「雨月」、「陶庵」、「堪庵」、「幽扉亭」など、多くの建物が並んでいる。

HP

第7-011号



三上家

北白川の志賀越道に建つ住宅。近くの北白川天神宮、隣の北白川天神宮・御旅所とならび、この地域の景観を形成する建物のひとつである。

第7-012号

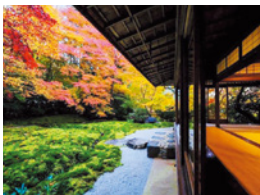


宝泉院

勝林院の僧坊として長和2年(1013)に創建された。書院は江戸中期頃に建てられた。方丈と庫裏まわりの庭園、水琴窟、京都市登録天然記念物の五葉松が見どころである。

HP

第7-031号



瑠璃光院

八瀬の広大な敷地につくられた数寄屋建築と庭園。大正末から、数寄屋造りの建物と、背景の山林を借景とした庭園がつくられた。紅葉が美しく、多くの人を集めている。

HP

第7-032号



二之部家

大工で工芸作家でもある大濱浄竿(じょうかん)が昭和43年(1968)、25歳の頃に建てたと伝わる住宅。彼が日本で建てた2軒のうちの1軒で、独特な室内空間を持つ。彼の工芸作品数点はブルックリン美術館に収蔵されている。

第7-034号



早川家

昭和7年(1932)に建てられた木造2階建ての住宅。土壁、しっくい壁、木製建具、畳など、自然素材の集合体で、心身ともに元気で穏やかに過ごすことができ、静かな感動を味わうことができる。京都の気候風土にあったすばらしい住環境である。

第8-015号



鎰富弘

銀閣寺の近くに建つ元そば屋の建物。白川通と今出川通の交差点から、疏水沿いに歩くと、特徴的な寺院風の外観が見える。

第8-040号



小林家(旧古川家)

北白川の疏水沿いに建つ鉄筋コンクリート造2階建ての住宅。昭和31年(1956)に建てられた。設計は増田友也で、コンクリート打ち放しが特徴である。

第8-041号



栗原家

大正期に建てられたと思われる近代数寄屋。座敷を中心とした間取りから、居宅ではなく、接客のために建てられたと考えられる。

景

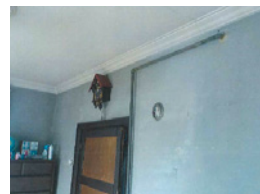
第8-042号



実光院契心園

江戸時代後期に作庭された庭園。築山の松は鶴を、池の島は亀を表現している。春夏秋冬、四季折々の表情を客殿から眺めることができる。

第9-003号



園頼三旧宅

美学者 園頼三(同志社大学教授)の旧宅。洋館と和館は大正時代に建てられ、大きな改変はされていない。現在は頼三の直系の子孫が大切に住んでおられる。

第9-027号



山本家

先祖から受け継がれてきた町家。明治から昭和にかけて料亭として、その後は住居として使われた。京都らしい街並みとして残していきたい。

第9-033号



an cafe

北白川の町家。内部は土間やおくどさんも残され、畳のある昔ながらの住まいの体験の場として今後も残されていって欲しい。

HP

第10-009号



カフェ APIED (旧ますや)

明治後期の頃、旅館「ますや」として建てられた。昭和の末に旅館は廃業したが、数年前に改修し、現在は春と秋限定でカフェ兼ギャラリーとして活用されている。

HP

第10-010号



京都大原 夢玄庵

築160年以上になると伝わる土蔵。明治維新の際、新撰組に追われた勤皇の士、藤村紫朗を傷か癒えるまで匿ったという逸話が残る。

HP

第10-011号



京都民芸資料館

明治期に滋賀県日野町に建てられた土蔵を、昭和56年(1981)に移築したもの。移築時の増築部分は陶芸家・上田恒次によるデザイン。京都の民芸の拠点となっている。

HP

第10-012号



好日居

遊園地・京都パラダイスの跡地に昭和初期に建てられた住宅建築。玄関脇にドイツ壁に縦長窓をはめた洋風応接室がつくられている。

HP

第10-014号



山内家

明治時代に旅館として建築された町家。昭和初期から戦後には、日本画家も集い、昭和50年(1975)頃には、京都大学の留学生が多く暮らした。

第10-015号



ヤマチカ

大正期に斜面地に開発された住宅地内の2階建て、入母屋造りの住宅。道路からは平屋のように見える。

景

第10-017号



和中庵

昭和3年(1928)に近江五箇荘出身の藤井彦四郎の本邸として建設された。洋館・客殿・茶室が残る。高低差のある広大な庭園は、自然の河川を取り入れたもの。

HP

第10-019号



池田家

明治中期に建てられたと思われる木造中二階の民家。屋号は「定右衛門」。敷地の三角形になっている部分を利用して、座敷周りの庭をうまく配置している。かつては七竈(ナナカマド)があり、7番目のカマドで炊いたご飯が懐かしい。

第10-044号



みのきちほんてん たけしげろう 美濃吉本店 竹茂楼

江戸時代後期に京都所司代から「川魚生洲八軒」の一つとして許可を受けたことに始まる料亭。別館は昭和42年(1967)から44年(1969)にかけて富山県の越中五箇山から移築した合掌造りの建物。

HP

第10-047号



ようしゅうじ 雍州路

昭和43年(1968)に民藝建築家 宮地米三の設計で建てられた精進料理店。店内には、重厚かつ機能的な宮地米三の民藝デザインが随所に見られる。

第10-048号



西雲院

金戒光明寺の塔頭。元和2年(1616)に、宗徹が、金戒光明寺より法然ゆかりの「紫雲石」を贈られ、この地に開創したのが始まりといわれる。「紫雲石」をお護りする紫雲石堂は、延宝8年(1680)の再建。

第11-008号



菅原家

明治時代に火事にあつた後に、再建された民家。梁の見える火袋やおくどさんをこのままの形で残していきたい。

第11-010号



頂妙寺

千葉中山法華経寺の僧である日祝上人が文明5年(1473)に開創した寺院。現在の堂宇は、天明の大火(1788)以後の建立。通り名「仁王門通」は、頂妙寺の仁王門を由来としている。

第11-011号



法輪院

真正極楽寺(通称:真如堂)の塔頭寺院。仏間には、檀家でもあった画家の猪飼嘯谷(いかいしようこく)の描いた26面の襖絵などもあり、それら什物を後世に守り伝えていきたい。

第11-012号



熊野神社

京都三熊野の最古社で、聖護院の守護神として、地域住民から「権現さん」とも呼ばれ親しまれている。鳥居を配した参道正面から拝殿が見え、奥に本殿、その東側に祖霊殿が建ち並び、境内の豊かな緑と一体となって落ち着いた一角を形成している。

景

第12-005号



服部家

火袋やむしこ窓などの趣が残っている建物。主屋は、表側と南側(裏側)にそれぞれザシキがあり、農家住宅の特徴を持つ。離れは、昭和天皇の御大礼に合わせて増築された。

景

第12-006号



妙傳寺

日蓮宗京都八本山の一つ。日蓮上人の御分骨が納められており、西の身延とも呼ばれる寺院。宝永5年(1708)の大火によりこの地に再興された。

HP

第12-007号



山内家

昭和16年(1941)頃建築の住宅。前庭、数寄屋風の玄関や供待、座敷の庭園などがそのまま残っている。受け継いだ住宅を次の時代にも伝えていきたい。

第12-008号



松本家

棟に煙出し、両妻に卯建が残る。街道に面する玄関の北側の格子戸は、鞍馬火祭の際には開放され、鎧などが飾られる。南側は近年駐車場として改修されたが、木製の引戸により景観への配慮が伺える。鞍馬の歴史・文化を伝える建物である。

第13-015号



岩崎家

主屋、蔵、付属屋のある農家住宅。主屋は切妻平入りのつし2階建てで、虫籠窓と煙出しを持ち、漆喰壁や瓦屋根は美しく改修されている。遠景の緑豊かな山や前面の水路と一体となった姿は、美しい前庭とともに、地域の歴史・文化を伝える。

第13-016号



旧岡本医院

昭和9年(1934)に建てられた医院併設住宅で、医院部分の洋館と住宅部分の和館がある。ガラスや建具はほぼ当時のまま使用している。廃業後長年空き家であったが、令和6年(2024)4月から、賃借され文化芸術拠点として活用されている。

第14-012号

NEW



関西セミナーハウス

昭和42年(1967)に建築家・増田友也(元京都大学工学部教授)によって手掛けられたモダニズム建築の建物。豊田秀吉の三百年祭につくられた能舞台は、丸い柱が特徴的。

第15-004号

NEW



森の家

設計者は澤島英太郎とされ、西向日の「向日庵」や北白川の「山本家」によく似ている。また藤井康二の設計した「暁竹居」にも見られる、小屋裏の丸い通気口のデザインとよく似た意匠を持つ。

第15-005号

NEW



南山田家

この建物は京都御所から移築したものと伝えられている。玄関の隣には式台がある。武家屋敷のような量の間が田の字に配置され、台所(もとは土間)、縁側という間取りである。

第15-006号

NEW



小島家

明治時代に建てられた建物。一文字瓦、真壁造の意匠が揃い、京町家の影響を受けた農家建築の形式をとる。庇の梁は重厚な趣きがあり、古い建具が残る。その奥には昭和初期の建物など2棟が建つ。現在も住宅として維持されている。

第15-015号

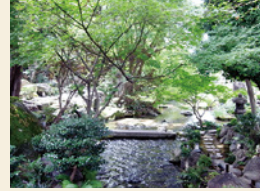
中京区



認定 上村家

上村松園(1875~1949)が大正3年(1914)に建築。上村松篁(1902~2001)も制作活動をした日本画家の住宅。大正期らしい様相を残す、時代を代表する住宅建築。

第1-028号



認定 がんこ高瀬川二条苑

高瀬川の源流で、角倉了以、山縣有朋とゆかりがある、七代目小川治兵衛作の庭園。森鴎外の小説「高瀬舟」の舞台にもなっている。

HP

第1-029号



認定 柘家

文政元年(1818)創業の旅館。麩屋町側の外観は駒寄せと樹齢80年余りのムベ、御池通り側は黒塀からなり道行く人の目を楽しませている。

文 景 HP

第1-031号



認定 先斗町歌舞練場

昭和2年(1927)3月に竣工。花街先斗町で中心的な役割を果たし、鴨川をどり・水明会が開催され、現在もお三条大橋袂の景色をなしている。

HP

第1-032号



認定 青木家

暖炉やステンドグラスのある洋館が通りに面する、和洋折衷の町家である。高塀を巡らせた外観は新旧が調和する界隈の街なみ整備の模範となっている。

文 景

第2-009号



認定 岩崎家

明治初期建築の伝統的な木造住宅。厨子2階建てで、出格子、虫籠窓が意匠を彩り、加敷造の軒裏からも歴史を感じる。庭は「花の庭」で四季折々の花が楽しめる。

第2-010号



認定 大江能楽堂

切妻屋根の舞台を中心に、見所は2階建ての別棟とし、舞台を矩折に取り巻いている。明治後期に創建された能楽堂の希少な建築遺構である。

HP

第2-011号



認定 藤井紋

昭和8年(1933)建築の京町家。その造りは、干し場、検品場所等といった絞り悉皆業としての仕事が効率良く出来るような配置になっている。

文 景 HP

第2-013号



認定 炭屋

大正初期に建てられ、茶道や謡曲を嗜む人たちのサロンとして始まった旅館。数寄屋建築の建物は当時のまま残る。客室の天井の網代、襖の引き手、聚楽の壁など今も大切に残され使われている。

文 HP

第2-056号



認定 俵屋

宝永年間(1704~1711)に太物問屋として創業。次第に宿を本業とするようになり、江戸末期には、様々な京都の地誌に「寄宿」として記載される。蛤御門の変(1864)で全焼したが、明治初年には旧館が完成する。

文 景 HP

第2-057号



認定 はやみす 速水家

大正2年(1913)の建築。現存する設計図等からも、当時の様子を窺うことができる。祇園祭の頃に襖を御簾や葺戸に替え、網代を敷き、夏のしつらえにすると、坪庭から奥へと風が通り、奥座敷から打ち水した庭を見ると涼やかで、心の安らぎが感じられる。

文 景

第3-015号



認定 岡墨光堂

生業である日本画の表装技術を生かし、絵画や書跡等の文化財修理をされている。大正12年(1923)に建替えられた建物で、経年の外観の傷みを近年修復された。木造の建物の風合いを生かしながら、歴史ある商売が続いている。

文 景 HP

第3-040号



認定 彩雲堂

全国的にも有名な歴史のある日本画の画材店で、鉄斎の看板が何よりの宝物である。店舗入口にある4枚の建具には施主の思いが強く、近年の改修では、腰板部分を補強・化粧を施し残された。銅製の樋も経年すれば生業にふさわしい味わいが期待される。

第3-042号



認定 竹影堂 (かざりや^{りょう}鐙)

金属工芸の老舗「竹影堂」から生まれた鋳細工の店である。この町家には、若手職人が作り出す、美しい銀細工の品々がミセノマに並べられ、その奥では加工作業が行われている。

景 HP

第5-004号



認定 廣田家

昭和2年(1927)に建てられた京町家。道路に面して洋館が建ち、奥に和風の居住空間や庭が続いている。建築当時の様子を伝える外観は、通りの良好な景観形成に寄与している。

景

第7-014号



認定 本田家 (旧寺江家)

昭和9年(1934)頃、呉服業を営む寺江家によって建てられた京町家。ハシリニワや火袋を持つ構成は京町家と同じだが、西洋のモダンデザインを取り入れている点に、新しいものを取り入れる京都の町衆の心意気が見られる。

文

第7-015号



認定 NISSHA本館

煉瓦造2階建ての洋館。明治39年(1906)、工場の事務所として建てられ、現在は印刷技術に関する収蔵品や会社の歴史をたどる資料を展示している。外観は連続したアーチ窓が並び、玄関にはコリント式オーダーを設ける。

文 HP

第7-016号



認定 誉勤商店^{こんかん}

誉勤商店は、呉服問屋が多い室町通の金襴製造卸商で、宝暦年間(1751~64)創業の老舗。創業時の建物は蛤御門の変(元治元年(1864))で焼失し、現在の建物は、明治9年(1876)に再建された。

景 HP

第7-035号



認定 島津製作所創業記念資料館

島津製作所の創業者島津源蔵の住宅として明治期に建てられ、その後、約45年にわたり本店として使われた。現在は島津製作所の資料館として公開されている。

文 HP

第7-036号



認定 田畑家

昭和5年(1930)に建てられた総檜造の町家。和洋折衷のつくりで2階に洋間がある。坪庭は裏千家今日庵に入りする造園業者 植熊によるものと伝わり、座敷を茶室としても使えるように坪庭から座敷に入ることができる。

第7-037号



認定 西島家 (山茶花美術館)

明治13年(1880)に建てられた表屋造の京町家。1階の格子と犬矢来、2階の虫籠窓が特徴で、明治期の商家の様子を伝えている。現在は山茶花美術館として使われている。

文 景

第7-038号



認定 家邊徳時計店^{やべとく}

三条通に建つ。煉瓦造2階建ての店舗部分は明治23年(1890)に建てられた。店舗の奥には住居棟が建つ。3連アーチが外観の特徴で、現在はテナントとして活用されている。

文

第8-017号



認定 藤井家 (東宅)

大正時代に建てられた町家で、内玄関の下には防空壕が残っている。祖父が購入したこの町家を、子どもに受け継がせたい。

第9-012号

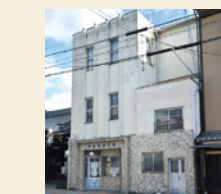


認定 藤野家

大正15年(1926)建築の京町家。昨今の土地バブルで地価が高騰し、維持に難渋しているが、ホテルにするのはしのびないので、なんとか後世に引継ぎたい。

文 景

第9-023号



認定 小林祐史写真場^{ゆうししゃじょう}

昭和初年に居宅兼写真館として建てられた木造3階建ての洋館。3階スタジオの北側は採光のために大きなガラス窓となっている。昭和初期の写真館の建物として貴重な存在である。

第10-025号



認定 元祇園^{なぎ}柳神社

「元祇園さん」とも呼ばれ地域に親しまれている貞観11年(869)創建の神社。柳神社・隼神社・社務所・鳳凰庫(ほうれんこ)とも戦前の建物で、地域の財産、京都の財産として後世に残していきたい。

景 HP

第10-028号



認定 錦天満宮

新京極の中にある菅原道真公をお祀りする鎮守社。地元では「錦の天神さん」として親しまれている。繁華街の中で心落ち着く神社で、ビルを突き抜けた鳥居も珍しい。

景 HP

第11-014号



認定 嶋臺

慶長13年(1608)に糸割符商として創業し、天明年間(1781~1789)に酒造業も始め、両業を家業とした。建物は、明治16年(1883)に再建された大規模な町家で、現在は貸会議場、ギャラリーとして活用している。

文 景 HP

第12-024号



認定 革島医院

昭和11年(1936)に外科医院として開院した住宅併設型の医院。あめりか屋京都店設計施工の木造2階一部3階建て、今もなお変わらない姿で残されている。昭和初期の医院建築として重要な建物である。

文

第14-006号



日昇別荘

一の宮城主杉浦三郎兵衛が秀吉の命で居住。昭和24年(1949)に日昇別荘として開業。茶室は、昭和初期のもので、大工の手間が入って美しい。

HP

第1-030号



前田家

明治29年(1896)に建築。おくどさん・走り庭・鍾馭さん・虫籠窓・布袋さん・三和土土間・箱階段・井戸・吹き抜け空間等を残している。庭は枯山水様式。

第1-033号



釜座町 町家

中規模で典型的な京町家である。町内会の持ち物として、合会や地藏盆に使用されてきた。国内外の支援団体と連携して改修し、再生された。

第2-012号



吉川

数寄屋造りの純和風建築と小堀遠州の作庭と伝えられる百坪あまりの庭園を有する料理旅館。建物は大正7年(1918)建築で4部屋の茶室を有する。今では手に入らない材木が各所に使われている。

HP

第2-058号



いちこ 市古家

正面に掲げる「山泉」の看板は、ソーニー創立者の生家である盛田合資会社の商標で、隣の「まるほ」醤油の看板と同じく、昭和12年(1937)製で初代店主の独立時に贈られたものである。近年の改修で側面を焼杉板貼りとし、落ち着いた雰囲気造りに工夫された。

第3-011号



井山家

元治元年(1864)の京焼後に即復興された元生糸問屋の建物。一部改修されているが、駒寄・出格子等は原形を留めている。裏蔵から見出だされた町式目は、平成版「姉小路界隈町式目」としてまちづくりの基本理念となっている。

景

第3-012号



菊岡家

運送業を生業とした先祖が江戸初期に作った漆喰の石室には、家屋が消失した蛤御門の戦いの時にも、貴重品を入れたそうである。現主屋は明治20年(1887)頃に建てられた。第二次世界大戦での延焼防止のため改修した袖壁、うたづ等が現存する。

第3-013号



谷口家

砂糖卸商を生業としていた仕舞屋の名残として、往時をしのぶ7枚の表戸が特徴的である。夏季は格子枠だけのすこぶる風通しのいい表戸に入れ替える。平成18年(2006)に景観に配慮した改修を行った。地藏盆と姉小路行灯会では沢山の方々が集まる。

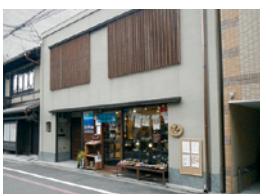
第3-014号



森田家

白い土壁が特徴的で、天井の煤竹も風情がある。竹内栖鳳が銅駝校で絵画を勉強していた頃に、下宿していたと伝わる。通りに面する坪庭に、家の前を行き来する人々を招き入れて、お茶のおもてなしをされている。

第3-016号



岩野家

牛乳販売をされていた時の大型冷蔵庫とブルーの3枚のシャッターが残っていたが、1階に店舗用と居住用の2つの格子戸、2階窓にも面格子、壁の仕上げを変えることで、居住者の安心、景観、経済性を向上させ、壊さずに引き継がれた。

第3-037号



植田家

オリジナルにより近い形に修復された。出格子、漆喰の色、引き戸等に昔からの京町家のしつらえが残っている。室外機を覆う格子には、ナグリ加工が施された材が使われ、品の良い表情となっている。生業である生そばの老舗と共用している庭も美しい。

第3-038号



岡野家

外観や茶室をリニューアルされたが、玄関の敷石や井戸といった古きよきものは生かし続けていて、家へのこだわりを感じさせる。外観では虫籠窓とクーラー室外機の格子カバーが美しく映える。両側の建物とも調和している。

第3-039号



久保田家

漆喰を塗り直し、戸袋や室外機格子カバーを設置等の改修が行われた。角地に建つ間口の広い建物なので、寺町通りから姉小路通りに入った折に、当家が見えてくると、建築協定を結び、改修を進めてきた姉小路の町並みの始まりが感じられる。

第3-041号



里村家

建物の側面に大工が長年保管していた上物の焼杉板を使用している。隣接がガレージであり、奥行が深いため目立っている。ファサードは地味ではあるが上品な色調と仕上げに工夫がみられる。境界ブロックも漆喰風の美しさが表現されている。

第3-043号



砂川家

先代から茶道具、書画・骨董品を商ってこられたためか、家の造りにお茶の精神が表れているように見える。飾窓が改修の際も移設に残される。その中に置かれるお茶花が、道行く人をさりげなくもてなし、先代からの精神を今に伝えている。

第3-044号



鳥居家

化粧柱を採用してアクセントを強調している。玄関扉をアルミ戸から木製格子に交換したことで、開口幅を拡げて利便性を高め、同時に景観性も向上させた。更に銅製の樋を採用したことで高級感を高め、趣のある京町家に仕上がっている。

第3-045号



松尾家

築90年程経っている建物に、近年室外機に虫籠窓のピッチや形状を考慮した格子枠をつけ、景観的に配慮された。京呉服の販売を生業にされ、室内の赤色の配色により、店頭には品のある色気が感じられる。

第3-046号



森口家

改築前の看板建築を、京町家らしい木の暖かみのある建物に還元し、耐震への備えも同時に行われた。デザイン上のアクセントになっている防火壁は、延焼防止の役割を果たすだけでなく、町並みを形成している景観要素の1つとなっている。

第3-048号



吉澤家

近年の改修で、全体のバランスを考慮して従来よりも扉格子のピッチを細かくし繊細さを表現すると同時に、樋や水切りにも銅を多用して上質感を高めている。真新しく輝く銅の美しさも時間とともに緑青へと変化して味わいを深めてくれる。

第3-049号



ひやくほう 百芳軒

明治初期に蚕糸問屋として建てられた典型的な京町家スタイルを残している。マンション開発が進む立地にある中、京町家の意匠を後世に残すだけでなく、地域コミュニティ活性化の拠点として開放されている。

第3-050号



三原家

間口が大きく、格子の前にお地藏さんがある町家である。大正時代に改装されたと思われる2階の洋間や、トオリニワの吹き抜けにある欄間などに特徴があり、通り景観としても、これからもずっと京都に残してほしい建物である。

第4-007号



佐々木家

昭和初期型と思われる外観で、表屋造り風の建物である。通りから見ると2階建だが、内部は3階建てで、階高が高く、1階、2階それぞれに本床のある座敷があり、当時の生活を偲ぶことができる建物である。

第4-008号



あめもり 雨森敬太郎薬房

江戸時代から続く伝承薬「無二膏」の老舗店である。風格ある庵看板を備え、黒壁に虫籠窓を持った意匠は、京都の薬種業としての歴史を伝えるとともに、地域の景観を形成している。

HP

第4-023号



村上開新堂

明治37年(1904)創業の洋菓子店である。看板の文字、カーブのついたショーウィンドウなどレトロな佇まいが歴史を感じさせる。店内には木枠のショーケース、タイル貼りの床などが当時のまま残されている。

HP

第4-024号



福井豊店

明治3年(1870)創業の老舗の豊店。木造2階建て平入りの建物で、表通りに面した1階の土間が作業場となっており、店主の手作り作業が見られ、高倉通りの風情となっている。

HP

第4-025号



小林家

昭和4年(1929)築の町家である。元々八百屋を営まれていたミセノマの部分を貸し店舗用のスペースへと改修。町家の佇まいを残し、ミセノマは賃貸部分とする町家再生の好例の一つとなっている。

第4-026号



旧光仙洞 (ババグーリ京都)

明治期の町家を店舗として活用することで残すことを理念に、平成7年(1995)に改修された。内部は、町家の構造や特徴を活かした造りとなっている。

第4-027号



西村家

近年、大正期の町家を現在の住環境に適した町家として改修された。外観は、古材を活用するなど町家の雰囲気を残しつつ、内部は、耐震、バリアフリー、断熱対策を講じたものとなっている。

第4-028号



熊谷道具處^{しよ}

明治期に建てられた虫籠窓と達筆な看板を持つ店舗型の町家である。店内は、創業当時と同様、茶道具類や古美術品が多数並べられ、地域の景観を形成している。

HP

第5-005号



そのどの 染殿院

「安産祈願のお地藏さん」として名高い寺院である。建物は、どんどん焼けの際、仮堂として建てられたものと云われている。喧騒な通りから一歩境内に入ると厳かで静かな雰囲気を味わうことができる。

第5-006号



玉の湯

明治期に建てられた、市民に広く愛される歴史ある銭湯である。正面玄関のタイル張りの部分の奥には当時からの町家の部分が残っている。

HP

第5-007号



かめすえひろ 亀末廣

文化元年(1804)創業の老舗の菓子屋。建物は、創業当初からの外観を残す総2階榎瓦葺の主屋と築100年以上の穀物用の蔵が姉小路側に建ち、その界隈の形成に重要な建物となっている。

第5-028号



わくてん 旧石川家 (和久傳堺町店)

木造平入総2階の間口が広い町家。腰壁に金属性のパイプ格子を備えた昭和初期の町家の特徴を備え、2階の虫籠窓や軒から簾がかかる外観は、姉小路界隈の景観の重要な要素となっている。

第6-008号



ぎほんえびす 旧日本商店 (魏飯夷堂)

明治20年(1887)頃の建築で、元は西京白味噌醸造を営む店であったが、数年前に中華料理店として再生された。内部も当時の町家の面影が残されている。

第6-009号



壬生狂言ゆかりの庭 (尼ヶ池)

壬生狂言を代表する演目である「桶取」の発祥の地。尼ヶ池の歴史は古く、平安時代の朱雀院の一部であると言われている。春の壬生狂言の際には、故事通りに池の水を汲んで壬生寺の本尊に供えられている。

第6-010号



あねやこうじ 姉小路高倉の2軒長屋

木造総2階の2軒長屋。出格子、尾垂れが特徴的で、共にかかる簾も含め、往時の景観を伝えている。1戸は飲食店として使用されており、誰でも町家を感じられる建物となっている。

第6-027号

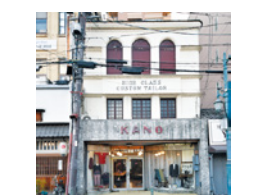


やおさん 八百三

宝暦年間(1751~1764)創業の柚味噌の老舗。総2階榎瓦葺で、格子、腰板を備えた外観は、当家から作り出される伝統の味とともに商家としての形が残されている。

HP

第6-028号



加納洋服店

大正期の町家の表屋を昭和2年(1927)に改修し、テーラーを始めた洋服店。パラペットを建ち上げ、3階建ての洋風建築に見せている。店舗は、作業のため、トップライトから自然光を取り入れている。

第6-034号



島津製作所旧本社

昭和2年(1927)、島津製作所の社屋として建築された。武田五一が設計顧問をつとめ、ロマネスク風の柱頭、三角形のモチーフなどが特徴。昭和初期の都市景観を伝える建築である。

HP

第6-035号



せせかん 膳處漢ぼっちり

昭和10年(1935)に呉服店兼住居として建てられた。表屋造の町家の構成を踏襲し、およそ200坪の敷地に洋館、和風の居住棟、離れ、土蔵が建つ。現在は、中華料理店「膳處漢」と、バー「ぼっちり」として利用されている。

HP

第7-013号



荒木家

荒木家の屋敷が禁門の変で焼失したため建てられた住居。京都を破壊から守るため、当時のつくりを残しているこの家を後世に残したく推薦する。

第9-034号



京のお宿 三福

大正時代終わりに建てられた元お茶屋さんの建物を丁寧に改修され、お宿として営業されている。お部屋から見える鴨川の景色は残すべき価値のある空間。

HP

第10-024号



竹内家 (旧丹定米穀店)

文化5年(1808)から近年まで米穀商を営んでいた。昭和2年(1927)に建てられた表屋造りの町家で、表蔵が建つ。とおり庭・はしり・火袋・天窓・おくどさん・井戸・虫籠窓・米屋格子などが風情を伝える。

景

第10-026号



満き (旧魚常)

100年近く料亭として使用されていた数寄屋造りの建物。母屋と離れ、2つの異なった趣の庭を有する。建物の至る所に使われている天然木材と、左官職人が丁寧に仕上げた聚楽壁が馴染んでいる。

HP

第10-027号



京都中央信用金庫 丸太町支店

昭和初期に旧第一銀行の支店として、建築家西村好時の設計により建てられた。鉄製の装飾が施された半円のアーチ窓が、印象的な外観となっている。

第10-049号



じん 旧神家

神家は、江戸幕府が設けた秤座の西国責任者として秤の製造、販売、検定等を担ってきた家系。棟札に文政7年(1824)と書かれた巽蔵は、蛤御門の変の大火を逃れ、現在に至る。

第11-013号



片山文三郎商店

京鹿の子絞り専門の呉服製造業を創業した初代が昭和10年(1935)に建築した表屋造、本二階建の町家。ザシキには繊細な意匠を施した良質な材を用い、洋室が設けられているなど、大正から昭和初期の上質な町家の特徴を見ることができる。

景 HP

第12-009号



カトリック河原町教会

明治23年(1890)建築の聖ザビエル聖堂が明治村へ移築後、昭和42年(1967)に新聖堂として建てられたもの。外観の大きな勾配屋根は、設計指導をしたカール・フロイラー神父が発案したものとされ、京都らしさを意識しつつ、モダニズムの意匠で建てられた印象的な聖堂である。

HP

第12-010号



井ノ口家

井ノ口家は、戦後まで「近江屋」もしくは「井ノ口屋」の屋号を名乗り、絞り加工業を営んでいた。建物は、明治5年(1872)に建築された。北観音山の山鉾町に位置し、宵山時には屏風飾りを行い、往来の人々が格子越しに装飾品を眺める。

景

第12-019号

東山区



認定 いもぼう平野家本店

江戸時代から代々暖簾を受け継ぐ料理店。外回りは黒文字垣、二階は虫籠窓、壁は聚楽となっており、昔ながらの雰囲気をもとに多くの方が好まれている。

HP

第1-036号



認定 ^{たんか}丹嘉

京の町にあって親しみを感じる店構え。ガラス越しに見えるお人形は愛らしく、屋根には鍾馗さんならぬ、えびす様や福祿寿、金太郎さんが並ぶ。

HP

第1-043号



認定 長楽館

明治42年(1909)に、日本の煙草王・村井吉兵衛がヨーロッパの様々な建築様式を組み込んだ迎賓館として建築。往時の香りが残る雰囲気の中、現在はカフェ&レストラン。

文 HP

第1-044号

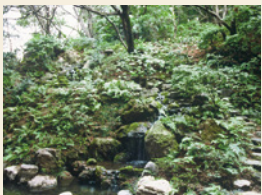


認定 八木家 (洛東静処)^{せいしよ}

白川沿いの広大な敷地に営んだ別邸を原形とし、現在は居住棟と土蔵、庭園の一部が残る。居住棟は、大正天皇即位御大典でも大きな役割を担うなど当時を偲ぶ数寄屋風建築として後世に伝えていくべき住宅である。

景

第3-053号



認定 ウェスティン都ホテル京都 葵殿庭園及び佳水園庭園

七代目小川治兵衛に築かれた葵殿庭園は、ダイナミックな雲井の滝、流れ蹲、沢飛び石などが特徴的で、長男白楊作の佳水園は、山水が岩肌を這うように流れ、繊細かつ躍動感のある庭となっている。

文 HP

第4-009号



認定 あじき路地

長年空き家だった明治末期の長屋を入居者も手を入れて大改装され、みなが家族のように暮らす若者の創作活動の職住一体の場として再生された。おだやかで凛とした空気が流れ、昔ながらのスタイルを保ち続けている。

景 HP

第4-010号



認定 総本家ゆどうふ奥丹 清水

創業寛永12年(1635)の精進料理店である。座敷客間から見える庭は、小川が流れ、桜や紅葉など四季を感じることで、600坪という広さもある通りからは想像できないような空間が広がっている。

HP

第4-029号



認定 曼陀羅園 丹羽家

曼陀羅園と呼ばれる住宅地は、昭和初期に丹羽氏などの有志者によって開発された、当時の住宅開発の好例である。その入口に位置する丹羽家は、隣接する長屋群と連担し、当地の景観の要になっている。

景

第4-030号



認定 そば茶寮澤正

そば茶寮澤正は、かつて貿易商の岩坪熊次郎が昭和2年(1927)に建てた広大な住宅の応接部分にあたる。座敷天井板は、伊勢神宮の撤下古材を下賜されたものと伝っており、施工には最高の技術を持った職人がついたと言われている。

HP

第4-033号



認定 順正清水店 五龍閣

松風嘉定の邸宅として大正年間(1912~1926)に建築され、設計は日本の近代建築に大きな影響を残した武田五一である。洋館でありながらも随所に和風の面影が残る貴重な建物となっている。

文 HP

第5-031号



認定 今村家

鴨川を挟む五条通から九条通までの大仏柳原庄の庄屋として450年続く旧家である。建物は、近世中期の町家の遺構として形式を保っており、その来歴・変遷が今村家文書に詳細に残されている。

文

第6-012号



認定 ^{とみよ}富美代

祇園甲部のお茶屋で、文化年間(1804~1818)、大きなお茶屋である富田屋(とんだや)から別家し創業した。現在の建物は、大正3年(1914)に建てられたもので、風格ある外観は祇園らしさを生み出している。

文 景

第7-040号



認定 旧熊倉家

五条坂の近くに住つ住宅で、昭和初期に建てられた。熊倉工務店の社屋として使われたこともある。近年改修され、宿泊施設として活用されている。

文

第8-045号



認定 小川文齋家

五条通に面して建つ表屋造の町家。敷地の奥には明治前期につくられた登り窯があり煙突が建つ。製陶業の繁栄を伝える遺構である。

文 景

第9-024号



認定 一力亭

元禄2年(1689)創業のお茶屋「万屋(よろずや)」に始まる。後に歌舞伎の演目に登場する茶屋の名前にちなみ「一力亭」とした。現在の建物は祇園の大火後、明治3年(1870)に復興した。赤壁が許された3軒のお茶屋のうち、唯一現存している。

第10-029号



認定 並河靖之七宝記念館

明治・大正期に七宝家として活躍した帝室技芸員 並河靖之の邸宅兼工房。主屋は明治27年(1894)に建築された。近代京都の産業を支えた七宝を感じることができる建物。

文 景 HP

第10-038号



認定 パビリオンコート (株式会社 京都山中商会)

元は古美術品の展示・収蔵施設。洋館、和館、門がある。大正9年(1920)池村元之助設計により建てられた洋館は、煉瓦積の壁体に鉄筋コンクリート造の梁とスラブを用いている。

文

第11-028号



いづら

創業天明元年(1781)から現在の地で営業。露地、茶室庭は、多少の変化があるものの、基本的な姿は、創業当時そのまま。

HP

第1-034号



いもぼう平野家本家

八坂神社のすぐ近くの東北に位置。数寄屋風の日本建築で、敷地内から屋根を突き抜ける「棕(樹齢約200年)」の大木の大きな枝が建家全体を覆っている。

HP

第1-035号



オダ薬局

寛政8年(1796)開業の薬局。建物は典型的な町家形式を残し、奥の光天井がある吹き抜けは、光と影がつくりだす幻想的な空間を作っている。

第1-037号



小野家

建物は、明治20~30年代頃のもので、特に目を引くのは床脇の天袋で、曲線を活かした独創的な意匠。庭には織部灯笼が置かれ、水琴窟が埋められている。

HP

第1-038号



小町家

京漬物屋兼住居だった築100年の町家を改修した貸し町家。土間、通り庭、虫籠窓、格子戸、坪庭など美しい京町家の意匠が詰まっている。

HP

第1-040号



阪本商店

古川町商店街の中央部に位置し、ガラス張りの明るさと格子などの和の雰囲気を活かした店構えとなっている。虫籠窓も残る歴史のある建物。

第1-041号



青山家

元々精米業を営む。母屋と連続した作業所には水車と疏水から水を引込んだ形跡がある。白川沿いの板塀の外観は写真撮影の場となっている。

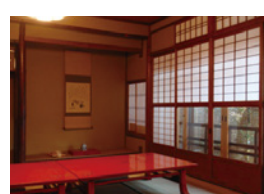
第2-014号



祇園まちなか案内所

築100年の町家を改修され、まちづくりや地域活動、情報発信の拠点として活用されている。長い路地が印象的で祇園らしく女性的な造りの家屋である。また、通風採光の妙を心得た造りとなっている。

第3-051号



望月

昭和初期にお茶屋として建てられたものが平成10年(1998)に復元された。建物と庭が一体となって景観をなし、内と外を仕切る垣根の板塀は、洗練された統一感を醸し出しており町並に融合している。

第3-052号



曼陀羅園 長屋

曼陀羅園と呼ばれる住宅地には、下地窓など数寄屋的な意匠を備えた上質な長屋が建ち並び、大きな窓から採光をふんだんに取り入れた間取りは、昭和初期に注目された、「健康住宅」を意識されたと思われる。

第4-031号



曼陀羅園 新家

曼陀羅園と呼ばれる住宅地の奥に位置する新家は、主屋に床の間、格天井をもつ18帖の広間があり、その奥には、ウィリアム・モリスの壁紙が使用されるなど洋風文化を巧みに取り入れた洋間が残されている。

第4-032号



市村家

明治初期の建築で、2階の格子や踊りの舞台だった板間空間など、御茶屋建築の意匠を伝える四条通に残る数少ない京町家である。近年、1階外観についても、伝統的な意匠に復元された。

第5-029号



URAGNO (旧森商店)

築90年を超える建物は、日本最初の路面電車を京都で走らせた京都電燈株式会社の大佛変電所の一部として建てられたものだとされ、和洋折衷の意匠が独特な空間を醸し出している。

第5-030号



天得院

正平年間(1346~1370)創建の東福寺の塔頭。方広寺鐘銘事件により取り壊され、天明9年(1789)に再建された。本堂は、江戸中期に移築したものである。桃山時代の作庭とされる杉苔に覆われた庭には、桔梗の花が美しい。

HP

第5-032号



かねい 鐘鐺町2軒長屋 (市川屋珈琲、八重家がねい町)

口伝によると築200年あまりともいわれる木造つし2階建ての2軒長屋。多くの町家が残る町並みの角地に立地する本建物は、周辺地域の景観形成に寄与している。近年、当時の風情を活かしながら新たに改修、再生された。

第6-013号



甘春堂東店

慶応元年(1865)創業の和菓子店。出格子、虫籠窓、軒灯看板、煙り出しを備えた町家の面影を残す店構えである。元は菓子工場だったが、昭和末に現在の店構えとなった。菓子作りと同様に、建物も往時を伝える。

HP

第6-036号



喜多見家

明治末、喜多見家の住まいとして建てられた京町家で、主屋は二棟がならんでおり、北棟は本二階、南棟は厨子二階。喜多見家は、粉や糊の貿易で財をなした旧家である。現在は和東茶を楽しめる喫茶店として使われている。

HP

第7-039号



きゅうせんかく 弓箭閣

昭和初期に町会所として建てられた弓矢町の町家。弓矢町は八坂神社の氏子で、近年まで祇園祭に武具甲冑姿で行列に参加しており、武具甲冑や古文書などを保管している。

第8-018号



半兵衛麩本店

元禄2年(1689)創業の麩屋。町家と洋館が並んで建つ。町家は1階が展示室とお食事処、2階が事務室、洋館は1階が店舗、2階がお弁当箱博物館の展示室である。

HP

第8-019号



片山家

人間国宝・五世 井上八千代を輩出する片山家は、江戸時代から「能の家」で、能や京舞の稽古場を備え、京舞に親しんでもらう催しを開催している。

景

第9-013号



帆布カバン 碓一澤

東大路通に面して建っていた5軒長屋のうち、唯一残った町家。知恩院さんの新門前はビルばかりで昔の姿を残す建物はわずかとなった。後世に残すべき風情を感じられる建物。

HP

第9-028号



とくじょうみょういん 得浄明院

信州善光寺別院として建立された尼門跡寺院。信州善光寺と同形の堂が建つ。門跡の住まいと宮家ゆかりの庭、雅な姿を京都の財産として残したい。

景 HP

第9-036号



きんぴょう 祇園金瓢

文化7年(1810)創業の造り酒屋の母屋を宿泊施設として使用。格子戸、虫籠窓、坪庭などの町家の風情とともに、杉玉、広い玄関、囲炉裏のある大きな土間、壁際に並ぶ造り酒屋の道具など、商家の雰囲気も味わえる。

HP

第10-030号



八田家

本2階建て、入母屋造りの町家。京焼を生業としていた家で、住居兼仕事場であった。町内には明治・大正・昭和を通して活躍された陶芸家の自宅・工房が軒を連ねており、この町家も永く残したい建物。

景

第10-031号



京都中央信用金庫 東五条支店

大正末期に、旧村井銀行の支店として建築家 吉武長一的设计により建てられた。石積み基壇の上にイオニア式柱頭を配置した柱を並べ、彫りの深い半円アーチ窓を配置し、当時の代表的な銀行建築の様式を備えている。

第10-051号



ちょぼや

祇園にある築120年を超えると言われる元置き屋の町家。現在は昭和29年(1954)創業の草履屋で、下駄、草履、舞妓の“おこぼ”を手掛けている。今も大切に使われているショーウィンドウや数寄屋風の内装は、昭和30年代の改変と思われる。

HP

第10-052号



花月庵

円山公園の南に位置する茅葺きの庵。もとの建物は、西行法師が止住した雙林寺塔頭「蔡華園院」の跡地に建立され、享保21年(1736)に、天津禅師により現在の地に移築再興された。

HP

第11-016号



堀井家

昭和16~18年(1941~1943)頃に建築されたと思われる高塀形式の町家。かつては代々小菱屋太兵衛の屋号で経木屋を営んでいた。現在の建物は廃業後に建て替えられたもので、伝統的で落ち着いた町並みに寄与している。

景

第11-032号



高宮家

築100年を超える、外観がレトロな洋館風の木造の住宅。当時は、1階で高宮大黒堂という薬店を営んでいた。薬店の看板や、明治時代のオルガンや柱時計も現役で残っており、大切に維持、継承していきたい。

第12-011号



清涼山 寶樹寺

浄土宗西山禅林寺派に属し、法然上人・西山上人が示された教えを伝える道場であり、大正14年(1925)に上棟した。鎌倉時代の阿弥陀如来立像他を有し、町地藏盆、茶道教室、門前掲示等の活動で地域に親しまれている。

HP

第13-006号



幕末維新ミュージアム 霊山歴史館

昭和44年(1969)竣工。三州産いぶし瓦の反りがある大屋根が特徴で、歴史博物館らしい重厚感があり、東山の景観の構成要素となっている。幕末志士の墓がある霊山護国神社と関連した展示を行い、歴史を継承する役割も担う。

HP

第13-007号



宮川町 うめ喜

明治36年(1903)建築のお茶屋として使われてきた建物である。建て替えが進む宮川町において、いまなお、連棟家屋、お茶屋格子とすだれ、2階の座敷など、芸妓・舞妓が育んだ歴史・文化と花街の彩を残している。

第13-008号



竹情荘

東福寺の南に位置する、四条派の日本画家・平井探仙の旧宅で、大正期から昭和初期の近代和風住宅の形態を有する。玄関、中廊下、洋室にかけては、壁・建具にまでナグリが用いられ、玄関廻りは格天井と寄木の床、座敷及び小間は形態の異なる床の間が設けられ、室ごとに数寄の要素を含む特徴付けがされている。

HP

第14-007号

NEW



東山ホテル

築100年前後の建物。内装は和風と大正風な洋風をMIXしたような作りになっている。当時の真鍮の把手やガラス、建具、照明器具等、昔を感じられる。

第15-007号

NEW



AKAGANE RESORT KYOTO HIGASHIYAMA 1925

大正14年(1925)に建造された伸銅会社の社長の旧邸宅。厳かな正門を抜けると竹林と銅、燈籠の灯りが織りなす幽玄の世界が広がっている。屋根や雨樋などいたるところに贅沢にあしらわれた銅が目を引き、熟成した青銅の輝きを放っている。

第15-008号

NEW



宮川町の宿 澤食

明治期に建築された珍しい三階建ての町家で、内装もその多くが当初の仕様のまま残っている。お茶屋の建物だったが、現在は宿泊所として使用している。日本文化を理解し愛する欧米の方々に特に支持されており、フランス本場で発行されているミシュランガイドにも旅館として掲載されている。

第15-014号

山科区



認定 奥田家

山科本願寺、寺内町御本寺跡の西北隅土塁遺構を主庭園に取り込んだ萱葺き屋根の京都近郊の郷土階級の住宅。建物の主部は元禄15年(1702)に建築。

景

第1-047号



認定 ^{むろが}室賀家

昭和13年(1938)に竣工の建物は、伝統的な町家と近代洋風建築を融合させており、当時の時代を反映している。希少で貴重な建築事例。

文 景

第1-049号



認定 森家

明治39年(1906)に単身で米国に渡り、ランプシェードに絵画を描くことで成功した美術商・森啓二郎が建てた住宅である。壁が非常に特徴的で、インテリアは同人の独自のセンスが各所に見られる建物である。

文

第1-078号



認定 岩屋寺

昔は山科神社の神宮寺であったと伝えられている。嘉永年間(1848~1854)に堅譲尼が再興。赤穂義士大石内蔵助の屋敷跡が境内にある。

景

第2-016号



認定 京都大学大学院理学研究科付属 花山天文台

昭和4年(1929)の創立以来、世界の天文学研究をリードしてきた。山科盆地から北西を望むと、東山に銀色のドームが2つ並び、多くの市民から親しまれている。

HP

第2-018号



認定 八幡宮

本殿は元禄8年(1695)建築。桁行3間、梁行2間で切妻造、檜皮葺の屋根をのせる。市内に数少ない切妻造本殿として貴重である。

文

第2-020号



認定 徳林庵

旧東海道に面して建ち、唐破風屋根の拝所が付く六角堂が行きかう人の目に留まる。茶所や荷馬の井戸が残り、往来の人々の休憩の場として賑わった当時の様子を今に伝えている。

文

第5-033号



認定 栗原家

建築家・本野精吾の設計による昭和4年(1929)の建築。中村鎮式コンクリートブロック造による3階建て、コンクリートを露出した先鋭的な外観表現を用いる。客間と食堂境の板戸は、施主の鶴巻鶴一の口ウケツ染で飾られている。

文

第6-037号

NEW



認定 春秋山荘

春秋山荘は、近江商人・下郷伝平が大正期に築いた別邸に遡る。現在残る建物は、明治3年(1870)に滋賀県の旧木之本町に建てられた茅葺民家で、昭和54年(1979)に大野木家によって現在地に移築された。土間境に大黒柱を建てずに大きな板間をもうける余呉型民家の特徴をよく示す。

第7-017号



認定 京都洛東迎賓館(旧大野木家)

吉田茂内閣で国務大臣を務めた大野木秀次郎の屋敷で、迎賓館としても使われた。昭和14年(1939)に建てられ、現在は結婚式場などに活用されている。

文 HP

第8-054号



認定 ^{ひむかいだいじんぐう}日向大神宮

新田義貞が戦勝祈願するなど、長い歴史を持つ神社。「京のお伊勢さん」とも呼ばれ、四季折々の美しい境内は市民から愛されている。

文 HP

第9-050号



認定 長谷川家

旧東海道の日ノ岡峠に位置する。主屋は、明治24年に創業された山科牧畜牛乳搾乳所の建物である。昭和初期には20頭以上の乳牛を飼育し、主屋の背面にはかつての牛の運動場が残る。昭和初期に増築された隠居家は栄花山荘と名付けられている。

景

第11-029号



認定 毘沙門堂

寛文6年(1666)に建立された本堂には、伝教大師(最澄)の自作で延暦寺根本中堂の御本尊薬師如来の余材をもって刻まれたと伝わる毘沙門天を安置する。向唐破風造の門などは京都では珍しいと感じる。

文 HP

第11-039号

NEW



認定 地野八右衛門家

主屋は、明治前期の建築と考えられる。おくどさんをはじめ、吹抜け、煙出しの残る農家住宅。そこに住まう人や出入りする人に合わせて建てられ、農業に携わる人の文化を伝えるものとして残していきたい。

第12-020号



平野家

昭和35年(1960)に建築。材木は樹齢100年程の檜を使用し、全ての柱、板にはベンガラ塗装が施され、当時の典型的な田舎の農家住宅。

第1-048号



大石神社

昭和10年(1935)に大石内蔵助の義拳を顕彰するため大石内蔵助公を御祭神として創建された。12月14日に行われる「義士祭」の最終目的地となっている。

HP

第2-017号



奥田家

石垣の上に板塀、白壁が印象的な住宅で、蔵と塀越しに見える庭の木々も鮮やかである。古き良き部分を残しながら改修が施され周囲の景観とも調和しながら、この地域の町並を豊かにしている。

第3-054号



岩屋神社

発祥は仁徳天皇三十一年と伝わる。本社の根源は、山腹に座す陰陽の両巨巖である。社殿は治承年間(1177~1181)に焼失。弘長2年(1262)に再建され今に至る。

HP

第4-011号



山科別院長福寺

享保17年(1732)、東本願寺の境内に建っていた長福寺を移築し創建された。本堂は天明年間(1781~89)に建てられたと伝わる。東本願寺の別院で、「東御坊さん」の名で地域に親しまれている。春はお花見、秋は紅葉でにぎわう。

第8-046号



片岡家

山科の農家住宅。木造2階建ての大きな民家で、瓦葺きの屋根には煙出しが見える。敷地の西側を土塀で囲み、庭を設けている。山科という地域を物語る建物である。

第8-047号



カトリック山科教会

三条通沿いにある幼稚園を併設した教会。昭和28年(1953)に建築された聖堂は、新興木造構造と呼ばれる木造のトラス構造で、鉄が少ない時代に国産の細木材で大空間を造る技術が用いられた。

第10-053号



しでい 四手井家

旧浪谷街道にある、中世から近世にかけて山科で展開した、旧・山科郷土の長屋門のある屋敷。中世にはこの地に「四手(野)井城」という城があったことが明らかにされている。

第11-018号

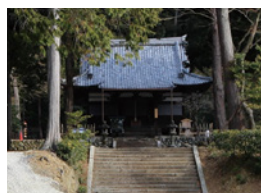


阿弥陀寺

旧三条通沿いの参道から至る敷地に建つ浄土宗寺院。本堂は、享保8年(1723)建立と思われる。門の化粧瓦には竹が描かれ、四隅に桃の瓦が配置されるなど趣向を凝らした意匠を施す。

景

第11-033号



安祥寺

嘉祥元年(848年)に天徳天皇の母・藤原順子の発願により恵運により再建された真言宗寺院。現在は、江戸時代に再建された本堂、地藏堂、大師堂等がある。

HP

第11-034号

NEW



西宗寺

文明13年(1481)に開かれた寺院で、山科本願寺を建立した蓮如上人御往生の地と伝わる。現在の本堂は弘化2年(1845)再建、北門(正門)は明和6年(1769)建築。春には広々とした境内一面に桜が咲き誇る。

第15-009号

下京区



認定 遠藤家

明治36年(1903)建築の厨子2階建京町家。本2階建が普及する過渡期であった明治後期の一典型をなす。上質で保存状態の良い貴重な町家。

景

第1-050号



認定 田中家

明治後期の建築で、客間の天井は天然屋久杉の一枚板、床は松心材の一枚板、柱は梅の四方柱・北山杉など、本願寺再建時の端材が用いられたとされる。

景

第1-052号



認定 龍谷大学 大宮キャンパス

京都の歴史とともに歩んできた建物が残され、現在も校舎や図書館などとして活用されている。

文 HP

第1-053号



認定 祇園床

町会所。祇園祭で「一里塚神饌式」が行われる長刀鉾の巡行休憩所だったが、巡行コースが変わった現在も、稚児・禿が礼拝する「抹茶拝喫」が行われる。

景

第2-023号



認定 ちもと

300年の歴史を刻む、間口の広い木造3階建ての数寄屋造の料理屋で、京都ゆかりの文化人や歌舞伎役者等に愛されてきた。現在の建物は、室戸台風と大洪水の後、昭和11年に建てられたもの。3階には77畳の大広間が配される。

景 HP

第3-017号



認定 杉本家住宅と杉本氏庭園

各1間半の床と棚を装置した座敷、独立棟として西に張り出した仏間などを有する。要素・空間構成などが評価される庭園とともに、京都の中心部における大店の建築遺構として、今日まで続いている仕事や生活を思い起こさせる。

文 HP

第4-012号



認定 きんせ旅館

江戸末期の建築で元揚屋と伝わる建物。出格子、下見板の腰壁、2階の掃き出し窓が張り出す意匠を備えており、当時の地域の歴史を今に伝えている。

景 HP

第6-016号



認定 高山家

昭和初期に建築された都市近郊の農家型住宅。外壁は真壁漆喰塗り、1階腰壁の下見板張り、2階の格子や虫籠窓を持った外観は良好な通り景観を形成している。

景

第6-017号



認定 中村家

本2階の比較的大規模な町家である。聚楽土で押さえられた外壁、ベンガラが塗られた木部、虫籠窓、平格子などの多彩な意匠は、間口が広い商家造りの特徴を持っている。

景

第6-020号



認定 旧村井銀行 七条支店

村井銀行七条支店として大正3年(1914)に建築された煉瓦造2階建ての建物。ドリス式オーダーの正面が外観の特徴。七条通の大正期の景観を伝える建物である。

景

第6-039号



認定 林英社屋

昭和13年(1938)に工場兼事務所として建てられたもの。道路に沿って長い塀が建ち、新町通の景観に寄与している。天井の高い大空間は、風呂敷工場であったことをしのぼせる。寄宿舎棟も残されている。

景

第7-018号



認定 石田家

上棟記念の小川文齋による菓子器が残り、大正14年(1925)7月の建築と分かる。床、蓑蓑床、違い棚を備えた座敷の奥には土蔵を背景とした庭が配される。2階には東洋風を加味した洋室や、竹を用いた造作の数寄屋風の部屋もつくられている。

景

第7-022号



認定 すじゃくぶんきちょう
朱雀分木町の町家

昭和初期に建てられ、交差点の隅切り部分に建つ。火袋、通り庭など明治・大正期の京町家と同じ特徴を持つが、外壁や内装に洋風意匠を取り入れており、昭和に入り変化する町家の姿を伝えている。

第7-041号



認定 **興正寺**

真宗興正派の本山。御影堂は明治44年、阿弥陀堂は大正4年に再建された。境内には、三門、阿弥陀堂門、経蔵、鐘楼などが建つ。近世から近代にわたる真宗寺院の遺構である。

文

第8-027号



認定 **旧橋家（望月家）**

昭和初期に建てられた総2階建ての表家造の町家。通り庭、火袋など、建築当時の意匠がよく残っている。今後も家族で維持・継承していく。

第8-048号



認定 **池善ビル**

大正末期に建てられた3階建て鉄筋コンクリート造の小さな商業ビル。河原町通の市電建設に伴う道路拡幅のために土地の大半が買収されたことを契機に建設したビルは、昭和の激動期を乗り越え、建設当時の姿をとどめている。

景

第10-054号



認定 **上田家**

本2階建て表屋造の白生地間屋を営んでいた町家。昭和初期に新しい生活のモデルとなるような町家として建てられたとされ、応接室や座敷、離れの茶室は当時は偲ぶことができる。

文 景

第10-055号



認定 **久保田美簾堂**

明治16年(1883)創業の京すだれ店。建物は明治33年(1900)の建築と聞いている。通りに面した店の建具のガラス張りは戦前からのもの。座敷は今も夏になると建具替えを行っている。

HP

第10-057号

NEW



認定 つるせ
鶴清

鴨川沿い松原上ルの「鮎鶴」から分家し、昭和7年に建てられた総檜造、3階建ての料理旅館。3階の舞台付き200帖敷き大広間からは鴨川の清流や東山が見渡せる。伝統を守り続ける老舗ならではの格式高いもてなしの場である。

景 HP

第11-036号



認定 すみや
角屋

島原にある江戸期の揚屋建築の唯一の遺構。螺鈿細工を施した「青貝の間」や、大正期に再建された「松の間」から眺める庭は格別で、「臥床の松」が角屋のランドマークである。

文 HP

第11-040号



認定 わちがいや
輪違屋

島原にある置屋で、唯一現存するお茶屋。幕末に再建後、明治期に改築された。「傘の間」や「紅葉の間」などの襖や屏風、中庭は見事である。

文

第11-041号

NEW



認定 **喫茶ソワレ**

昭和23年(1948)に開業した、フランス語で夜会・素敵な夜を意味する店名の喫茶店。洋画家佐々木良三、彫刻家池野禎春、国際染織美術館館長だった上村六郎らの尽力で建築された。内装には、「葡萄」や「向日葵」など池野の木彫り彫刻が施される。昭和の文化とともに当時の喫茶文化を今に伝える貴重な建物である。

HP

第14-008号



しきさいビル

昭和6年(1931)建築の鉄骨鉄筋コンクリート陸屋根3階建て。外観は洋風で白壁でありながら底は瓦という現在の景観条例を先取りした粋な建物。

第1-051号



京都タワー

京都の玄関口である京都駅前に立地する展望塔。京都に戻ってくると、暖かく迎えてくれるその姿にホッと人は少なくないはずである。

HP

第2-022号



小林家

出格子のついた高塀造り。2階建切妻の蔵が目立つ。奥庭には水琴窟があり、市中とは思えない静かな空間となっている。材料・職人技術が高く洗練された京町家。

第2-024号



明王院 不動寺

平安京造営前に開基された。弘法大師作の石仏不動明王が本尊である。桓武天皇が王城鎮護のため京都の東西南北に設置した磐座の一つである南岩倉である。

第2-026号



林家

主屋は元治の大火で焼失後、明治初年に建てられたものと伝わる。通りに面して出格子と門を開く高塀が延び、主屋は少し後方に置かれて、その間に前庭と玄関への通路があり、更に奥には座敷庭を挟んで土蔵が配されている。

景

第3-018号



友田家

明治45年(1912)の建築の町家である。米屋を営まれてきた建物から住宅へ時代ごとに役割を変えながら代々大切に使用されている。最近、虫籠窓が復原されるなどファサードの改修が行われ、大宮通りの景観に寄与している。

第4-013号



かめやむつ 亀屋陸奥

応永28年(1421)創業の和菓子の老舗店である。漆喰壁で木瓜形やハート形などの虫籠窓があり、堀川通沿いで、近代的な建物が立ち並ぶ中、西本願寺とともに本願寺界隈の景観を形成している。

HP

第4-034号



関西電力京都支店

昭和12年(1937)に武田五一により設計された鉄骨鉄筋コンクリート造8階建のオフィスビル。様々なモダンデザインを取り入れていた同氏の意匠に対する意識が感じられる建物である。

第6-014号



ギャラリーのざわ(山田家)

黒色のタイル貼りの外壁を持つ大正15年(1926)建築の町家。座敷のほかおどさんや火袋が残されており、落語会やミニコンサートなど、市民の方が幅広く町家の文化を体感できる空間として親しまれている。

HP

第6-015号



高田家

昭和4年(1929)に建築された木造2階建て切妻造、棧瓦葺の京町家。木製引違戸の横棧や丸窓の組木に赤漆が施されており、建築主のこだわりも随所にうかがえる。

第6-018号



今西軒

明治30年(1897)創業のおはぎ専門店。昭和初期の建築と推測される本2階の町家。商品を並べるショーケースなど、老舗の雰囲気を感じさせる。看板を掲げた外観は賑わいを感じさせる。

第6-038号



柴田家

万寿寺通間町の南西角に建つ町家。茶道具商を営んでいたため、設えは茶道や作陶を嗜む歴代の主人の洗練された趣味を色濃く反映しており、受け継がれている生活文化も貴重である。万寿寺通に残る数少ない大型町家である。

第8-020号



東華菜館本店

昭和元年(1926)に建てられた北京料理店。設計は米国人建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズ。四条大橋西詰に建つ洋館で、ランドマークとして親しまれている。タコ、ホタテ貝、巻貝などをモチーフとした装飾が見事で、日本最古のエレベーターも貴重である。

HP

第8-021号



なかむら 旧中邨家

昔の姿を残している大型の町家。祇園祭の物見台が残っている。しっかり手入れされていたため建物の状態がよく、大きな改修もされておらず、貴重な町家である。

景

第8-028号



大藪家

通りに面した2階の外壁は銅板葺きで、室内は洋間、座敷などがある。メインストリートに面して昔の趣が残っており、珍しいと思う。

第9-014号



五條会館

五條楽園歌舞練場として建てられた木造3階建ての大規模な建物で、2階は大広間、3階は稽古場だった。花街として栄えた地域を象徴している。

第9-015号



五條制作所

昭和初期のお茶屋建築で、外観や内装は当時の面影を残す。五條楽園の貴重な文化遺産として後世まで残すことが願いだ。

第9-016号



亀山家

京都の名工 北村傳兵衛(でんべえ)が昭和3年(1928)に建てた町家。建てられた当時の姿がほぼ残されており、貴重と思われる。

第9-037号



山本家

明治8年(1875)、山本亡羊読書室跡地に建てられた住宅。主屋の主要な部分と庭は建てられた当時の姿を残す。京都の財産として残したい。

景

第9-038号



若宮八幡宮

天喜5年(1057)に創建された八幡宮。町民の信仰が厚く、若宮八幡宮祭は若宮町の奉賛会が運営し、神輿渡御(みこしとぎょ)は植柳学区の住民から協力を得ている。

景

第9-039号



初榮大明神

江戸時代末期に創建された神社。夜になると動物に化身し、地域や子供を見守っていると伝わる。地域に信仰されている神社を後世に残したい。

第10-032号



救世軍京都小队

昭和11年(1936)、ヴォーリズの設計により建てられたキリスト教施設。洗練されたゴシックの小さな教会堂は、木造でありながら、外観が石造のように見え、見事である。

第10-056号



平等寺(因幡薬師)

平等寺は、「因幡薬師」、「因幡堂」とも呼ばれ、病氣平癒、がん封じ、縁結び、子授けなどの信仰がある。本堂は、幾度も焼亡しており、現在の建物は明治19年(1886)の再建。狂言「因幡堂」の舞台になっており、本堂前で狂言が行われる。

景 HP

第10-058号



鉤菱弥

元禄3年(1690)創業の元呉服の製造卸。現在の建物は、大正期の建築と思われる本二階の町家で、主屋と離れの間には、大きな躰を置いた庭が配されている。

景

第11-019号

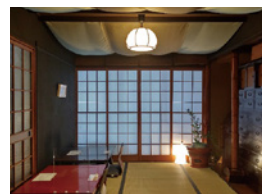


蓮久寺

寛文元年(1661)創立の日蓮宗の寺院。山門は吉野門と呼ばれ、2代目吉野太夫による寄進の赤門である。

HP

第11-022号



たか橋

五條楽園に残る、お茶屋の面影を残す建物。1階床下には第二次世界大戦中に造られた防空壕跡も残り、歴史の生き証人のような存在でもある。

第11-035号



中野家

明和元年(1764)創業の数珠屋。建物は、明治期に建て替えられたものと伝わり、ぱったり床几も残る京町家。訪問者を癒やすこの建物を残していきたい。

HP

第12-021号



萩原家

明治時代に建てられた住宅で、三間続きの広間を、廻り廊下と広い庭が囲み、灯笼、蹲踞、見晴らし石と植栽が配され美しく維持されている。床の間、仏壇のある和室と蔵を有し、歴史と重厚さを感じさせる建物である。

第14-002号



料理旅宿井筒安

天保10年(1839)の創業で、現在も伝統的な京町家の建物で旅館業を営んでいる。外観のみでなく7室の客室の内装にも伝統的な工法が取り入れられている。将来に渡り、京都の街の伝統的な景観の維持に寄与する建物である。

HP

第14-009号



高倉会館

明治6年(1873)に建てられた木造平屋建、総けやき造の講堂。大正11年(1922)、高倉学寮(大谷大学の前身)の講堂「貫練堂(かんれんどう)」を引き継ぎ、高倉会館として開館した。

第15-001号



江村商店社屋

昭和13年(1938)に建築された店舗併用住宅。屋根は、1、2階共一字瓦で美しく整えられている。8畳のみせの間は、格天井と豪華である。

第15-003号



重信会館

昭和5年(1930)に建築された寄宿舎で、昭和初期の建築らしいアールデコの特徴が味わえる。中央に入口、両脇に丸窓のある左右対称のつくりを基本とし、印象的な窓飾りや階段の意匠、鳥の絡まる外観など西洋と東洋が融合したエキゾチックな建造物。

第15-010号

南区



認定 日の出湯

昭和3年(1928)に建築。京都の銭湯の典型的な姿を完全な形で残しており、現存している京都の戦前築の木造銭湯の中で最大規模。

HP

第1-055号



認定 長谷川家

京町家の影響を受けた切妻・瓦葺きの木造2階建て農家住宅。「寛保2年(1742)築造」の祈禱札がある。明治期作成の図面を基に修復された。

文 景 HP

第2-028号

NEW



認定 田中家

通りに面して、業医門と塀を構えた、明治17年(1884)上棟の主屋が残る農家住宅である。大戸を開けると広い玄関土間、玄関の間には衝立ての調度品が季節に合わせて設えられ、訪れた者を迎える。

景

第4-014号



認定 六孫王神社

東寺の北に位置する神社。源経基が祀られており、彼が遺した「死後も龍神となって子孫繁栄を祈る」との言葉から池は神龍池と名付けられ、手水舎には龍があしらわれている。

文 景 HP

第8-023号



認定 旧九条湯

昭和初期に開業した銭湯。廃業から10年、貸会場として見事に再生された。立派な風格ある外観はそのまま残り、浴場などは銭湯の姿を残している。

第9-004号



吉祥院天満宮

菅原道真公没後31年目にあたる承平4年(934)に創建された最初の天満宮。境内には吉祥天女社や道真公のへその緒を埋めた塚もある。

第1-054号



鈴木組

昭和初期の木造2階建て洋風建築。外壁に石・タイルを多用し、内部は漆喰塗りで、天井・壁とも模様をかたどった趣のある仕上げとなっている。

第2-027号



田中家

明治初期の農家住宅で、現在は、畑が駐車場になっているが、通りに面して畑を持ち、奥に建物を構えるという、この村の屋敷の特徴を残した配置となっている。主屋には、「ねずみいらず」と呼ばれる穀物を保管した納屋が残っている。

第4-015号



伊藤家

昭和初期に葉茶屋の商家として建てられた町家である。看板建築に改変されていた外観を、当時の趣ある佇まいに修復された。内部は、格天井や箆欄間がある本玄関など格調高い造りが随所に見られる。

第4-035号



田中家門

武者窓が施され、腰板は船底の板が使用されたと云われている長屋門である。塀は、当時から3分の1の長さとなったが、今でもその偉容を伺わせている。

第5-008号



大橋家

明治20年(1887)頃の建築と言われる重厚な主屋と門を持つ農家住宅である。古来から豪雨時に冠水し易い地であったことから、敷地北側に向け、地上げが施されている。

第5-034号



大塚家門

重厚な長屋門、白壁の美しい土蔵とその間の塀がこの一角を美しく彩っている。本宅は、新しく建て直されたものの、門、塀、土蔵や緑豊かな庭は、かつてここにあった風景を思わせる。

第5-035号



林家

大家根に煙出しを備えた竹まいが古さを物語っている。虫籠窓の丈が低いのが一層の古さを感じさせ、改修された部分はあるものの、昔の趣きが残されている。

第5-036号



石原家

煙出し、虫籠窓を持つ明治期の建築と思われる農家型住宅。周辺地域の往時の景観を残す建物となっている。塀と門越しに見える庭は、木も大きくよく手入れをされている。

第6-021号



長谷川家

南北の古道に面した農家型住宅で、広い前庭や主屋には煙出しがあり、屋根瓦の総数は約1万枚と大規模なもの。内部はおくどさんや箱階段が建築当時のまま残されている。

第6-022号



山下家

塀に囲まれ美しい庭を持つ農家住宅。塀越しに見える虫籠窓を備えた主屋や土蔵は、地域のかつての景観を伝える貴重な建物となっている。

第6-029号



田中家

竹田街道に建つ商家風の町家で、江戸時代末に建てられたと伝わる。玄関横に出格子があり、ぼったり床几が残る。竹田街道を彩る建物。

第6-041号



綾戸國中神社

久世橋の西に位置する神社。本殿は綾戸宮と國中宮の二社が祀られている。國中宮は祇園社と同じ素戔鳴尊(すさのおのみこと)を祀り、久世駒形稚児が祇園祭の神輿を先導する。

HP

第8-022号



廣瀬米穀店 お米屋カフェ

昭和元年(1926)創業の米屋。米屋の一角では、カフェも併設し、暖簾や大きな開口部など、竹田街道ににぎわいをもたらす存在として価値が高い。

HP

第10-033号



杉山家

低い屋根高にむしこ窓を設けた町家風意匠の農家建築。煙出しもあり、古い建物ではないかと思われる。

第12-013号



戸倉家

明治2年(1869)に建てられた農家住宅。煙出しの残るつし二階建てで、間口6間の雄大な構えは、京都の近郊農村の風景を留める貴重な住宅である。

第12-014号



中村家

玄関門とそれに連なる土蔵、手入れの行き届いた庭、その奥にむしこ窓のある大きな本宅がある。腰板張りの色と調和した、白壁が実に美しい。

第12-017号



長岡家

西国街道沿いに建つ農家住宅である。茅葺にトタンを被せた母屋、そのわきに大きな「おがたまの木」が生えている。長屋門をもつ明治期の建物である。

第14-013号



戸倉家

煙出しのある、大規模な農家住宅で、京都の農村部の原風景のひとつである。昔の農家の生活をうかがうことのできる歴史的建造物である。敷地内に新しい建物も見られるが、昔からある建物に手を入れながら綺麗に維持されている。

第14-014号

NEW



嶋松尾神社

産土神とされている嶋松尾神社は、松尾大社の分霊社で三神が祀られている。松尾祭の出発点であり、神幸祭・還幸祭で七社の神々を先導するのが嶋地区と吉祥院地区の榊御面とされている。

第15-011号

右京区



認定 山崎家 (旧井上家)

築400年と伝わり、自然豊かな北嵯峨の地に、白壁の築地塙で囲まれた茅葺きの民家。かつて20数歩町の田畑を有した豪農の風格を変わりにくく維持している。

文 景

第1-057号



認定 天使の里 霞中庵 からゆうあん

近代日本画家の第一人者、竹内栖鳳(1864~1942)が自らの画室とするために設計監修し、美しい庭と贅をこらした見事な数寄屋造り「霞中庵」を完成させた。

HP

第1-059号



認定 卯瀧家 うたき

自然な美しさに魅せられる茅葺き屋根が、母屋と納屋の2棟で維持されている。集落の高台にあって、絵画的な風景を醸し出している。

第2-030号



認定 河原林家

築後500~600年。京北山国地域の民家で北山型と言われる。千木が九つ屋根の天辺に載る大屋根である。囲炉裏やおくどさんは現役で利用されている。

第2-032号



認定 平野屋

古くより愛宕神社の門前町として賑わい、街道沿いに茶店等が建ち並ぶ嵯峨鳥居本の町並みの中にあつて、400年の歴史があり中核をなす茶屋である。外観、内部とも江戸時代にタイムリリップしたような野趣あふれる茶屋の面影を残している。

HP

第3-019号



認定 愛宕神社

全国に約900社を数える大宝年間(701~704)創建の愛宕神社の本社。江戸期の建築と伝わる本殿などの建築物の欄間には、菊や鳳凰など見事な彫刻が施され、この社の価値を高める要素となっている。

HP

第6-023号



認定 旧邸御室

昭和12年(1937)に建てられた邸宅。質の高い和風住宅である主屋に加え、双ヶ岡の斜面を利用したひろびろとした庭園には、茶室や待合が建てられている。茶室の付書院のような窓からは御室の山を眺望することができる。

文 HP

第7-019号



認定 稲波家

築200年ほどと思われる茅葺き屋根の民家。町家などと同様に、郊外の歴史的建築物も失われていくスピードが速く感じる。頑張って残していきたい。

第9-040号



認定 旧宇津郵便局

宇津郵便局舎として昭和10年に建築された木造2階建の洋風建築。1階に郵便局の窓口や執務室、2階には和室などの生活空間が設けられた。郵便制度の整備のため、政府が地域の素封家に世襲権を与えて開設させたもので、地域の近代化の歴史を語る。

第9-043号



認定 Hotel宇多野京都別墅 (旧大渡邸)

書院造の和館、数寄屋意匠の離れ、スパニッシュ風外観の洋館を有する邸宅。実業家・大渡光蔵邸として昭和14年に建てられた。庭園は作家・重森三玲が指導したもの。

文

第9-044号



認定 柴田家

大正時代に京都のまちなかから大工を呼び寄せて施工された美しい住宅である。

文

第9-051号



認定 井上・曾家 つえん

230年以上の歴史をもつと伝わる古民家。囲炉裏やおくどさんも残り、来客のたびに利用している。美しい里山の景色の中で、この茅葺き屋根を後世に残したい。

第10-034号



認定 柴井家

夕焼けと棚田がとてもきれいな集落にある茅葺き屋根の民家。染色工房兼住まいとして活用しながら、懐かしくほっとする茅葺き屋根の風景を残したい。

第10-061号



認定 ヘレスバック・ルノー家

200年以上前に建てられたと伝わる民家。周囲には小塩川や森が混在し、山の景色が美しい。茅収穫のような交流や助け合いを存続するためにも、茅葺き屋根で始まった家本来の姿に戻したい。

第11-037号

NEW



認定 辻澤家

仁和寺近くにある邸宅。昭和初期に建てられた主屋や、円窓のあるお茶室「衣翠庵」、離れ「不狐庵」があり、広大な庭園は、四季折々にその表情を変えている。

HP

第12-001号



認定 らくししゃ 落柿舎

落柿舎は、江戸時代に松尾芭蕉の門人の向井去来の別宅を再興したもので、芭蕉が嵯峨日記を残したという、文学史上で貴重な史跡と言われている。敷地内の建物と庭の草木の様子は、なんとも言えず懐かしく、風情がある。

文 HP

第12-016号

NEW



認定 しゅうんさよ 拾雲居

大正初期に素封家・佐々部茂左衛門の別荘として造営された。茅葺きの主屋は、柗尾山中の農家を移築したもので、小倉山を借景として建つ。離れは広間と小間を備えた茶室で、南庭から嵐山を一望できる。

第12-022号



あせくら 今西家校倉

京北でも雪の多い地域に建っている穀物倉庫と思われる。校倉は近年利用されなくなっているが、次代には、昔の知恵として伝えておくことが大事である。

第2-029号



ウッドラフ家

夏涼しく、冬暖かく、湿気もとってくれるたたきで土間が作られており、おくどさんともマッチしている。自然素材で作られたものは人にも環境にも優しい。

第2-031号



木下家

1600年代後半の建築と思われる茅葺き屋根の建物である。室内には「ちよんながけ」とみられる柱が残る。紅殻を使った腰戸や戸などが美しい。

第2-033号



さわらぎ 榎木家

榎木家の本家。明治の建築。梁や大黒柱が太く、部屋の空間がダイナミック。ペンガラ塗りの格子が印象深い。茶室、庭、蔵など雰囲気がある。

第2-034号



さわらぎ 榎木家

榎木家の分家。昭和元年(1926)以前には建つ。大きな梁が特徴的。部屋から広がる庭の眺めは自然と一体となった暮らしを感じさせる。

第2-035号



庄野家

入母屋造平入の茅葺(茅葺の上にトタン葺)の農家住宅。時代とともに改修が施されているものの、往時の景観を伝える建物である。また、欄間彫刻が意匠を凝らしており素晴らしい。

第2-036号



中川家

座敷と納戸の間の建具が珍しい。土蔵の入口には「こて絵」がある。現役の間戸は今も大切に使われている。

第2-037号



初田家

おくどさんが立派で、冠のある透かし彫りは「猪の目」と呼ばれ目を見張る。

第2-038号



林家

床、天井、軸組みに目の通った太い良材を使用する重厚で風格ある作りとなっている。たたきの土間、七つ竈、屋敷構えの土蔵等保存状態も良好。

第2-039号



藤野家

明治維新の際、維新勤皇隊山国隊を取りまとめた藤野斎の生家。神社神職として仕えてきた旧家。立派な長屋門が残る。

第2-040号



中川家

街道筋に瀟洒な長屋門を構える。門を入ると大きな石組が置かれた庭園と玄関が目に入る。母屋の縁からは、清滝川と西明寺が浮かび、都名所図会等に描かれた景色を見るようである。

第2-059号



小山家

江戸時代から続く薪炭商を営んでいた建物である。不運にも安政期に火災により土蔵以外が焼失したが安政3年(1856)に再建。当時の薪炭倉庫や車折神社から曳家した離れとともに薪炭商当時の状況が伺える炭俵や帳面などの品々が残されている。

第4-016号



つきのわでら 月輪寺

愛宕山の東方深い山中に位置している天応元年(781)開創と伝わる山岳寺院。標高570mに位置し、眼下に京都市街を一望できる境内には、本堂、祖師堂、権現堂、宝物殿等が配されている。

第6-024号



じげんどう 慈眼堂

愛宕道に建つ御堂。堂内に藤原定家の念持仏と伝わる千手観音立像が安置されている。現在は中院町の町会所としても使われており、嵯峨野の歴史・文化を伝える貴重な建物である。

第7-020号



伝心庵

明治に建てられた私邸で庭園を持つ。仁和寺の近くに建ち、現在は旅館として活用されている。

HP

第9-018号



平井家

棚田が美しい越畑に建つ茅葺き屋根の民家で、明治初期に建てられたと伝わる。標高約400メートルの高地である越畑では、近年、村おこしに力を入れている。

第9-026号



高乗家

明治初期に建てられた茅葺き屋根の民家。室内は改装したが茅葺きは残したい。少しでも素敵なふるさとを維持することが私どもの幸せである。

第9-041号



徳平庵

茅葺き屋根をトタンで覆うか迷っているが、京北から茅葺き屋根が無くなると、京北がさびれてしまうように思えてならない。

第9-042号



かんきゅうろう 花のいえ 關鳩楼

角倉了以の舟番所址に建つ旅館。離れ座敷の「關鳩楼」は江戸時代初期のものとなり、枯山水の庭園は小堀遠州の作と伝わる。

HP

第10-035号



小谷家

築150年と伝わる茅葺き屋根の主屋、乾蔵、辰巳蔵のある元庄屋の民家。内部にはおどさんがあり、玄関脇にはウマガが同居していた。庭には、枝垂れ桜が植えられており、道行く人の目を楽ませてくれている。

第10-059号



平井家

長屋門がある民家。門の柱に打ち付けてある祈禱札に「寛政十三年」とあることから江戸時代の建物の可能性がある。棚田をはじめ自然のある風景を残すためにも、この建物を大切に残留してほしい。

第10-060号



羽田酒造

京北に構える明治26年(1893)創業の酒蔵。地域の財産でもある木造蔵は、築100年を超える。敷地内には、「祝米(酒米)」の田園があり、地産・自産の昔ながらの酒造りを続けている。

HP

第11-023号



小川家

家屋は昭和10年(1935)頃の建物で、庭には100年以上生息する樹木が多数あり、ハナヤスリ、フユノハナワラビなどの希少種もある。池がありモリアオガエル、イトトンボも生息する。庭には灯籠10基、線先手水鉢3鉢、蹲が3箇所あり、敷地の多くが苔に覆われその種類は13種に上る。

第14-015号

NEW



優里庵

築200年を超える茅葺き屋根の古民家。梁や柱などの建材に立派なものが多く使われているとともに、おくども残っている。令和6年(2024)に農家民宿として開業。

第15-012号



西京区



認定 カトリック桂教会

木工家具デザイナーのジョージ・ナカシマの設計で昭和40年(1965)に完成した。緩やかに曲線を描きながら反り上がる屋根と、それに対峙する十字架が力強く美しい。内部空間は行灯等の日本の要素に加え、アメリカ経由の日本と言うべき雰囲気を持つ。

HP

第2-066号



認定 玉村家

奥には6畳の上段の間があり、欄間・床・違間のある書院造りの建物で、山陰街道榎原宿場町の陣屋であった豪華なたたずまいが感じられる。街道の両側に虫籠窓を持つ町家が続く町並みの中心となる、住民にとって誇りに思う建物である。

文

第3-021号



認定 中村家

桂大橋を街道沿いに西へ向かうと、新しい家が並ぶ路地の向うに白く輝く漆喰壁の土蔵が見える。裏の通りからは煙出し、虫籠窓といった伝統的な意匠が認められ、手入れされた庭や座敷の様子から、生活の表情を感じることができる。

第3-022号



認定 中村軒

創業明治16年(1883)の老舗饅頭屋である。約30年前に住居部分を茶店にする等、時代の変化に準じて建物に手を加えられているが、むくりのついた大屋根に煙出し、虫籠窓が残っており、店先の雰囲気から当時の往来客の様子を想像させられる。

景 HP

第3-023号



認定 かぐや姫竹御殿 (BAMBOO COFFEE)

昭和初期、竹職人の名工長野清助が「竹取物語」へ思いを深め、27年の歳月をかけて造った竹尽くしの建築物である。内装には、竹をモザイクタイルのように散りばめた仕上げをはじめ様々な技法による意匠が残る。

第5-009号



認定 山口家 (苔香居)

京都西山の自然や四季と調和しながら佇む旧家である。端正な風格のある長屋門が、東海道自然歩道を散策する人、道行く人を魅了している。

文 景 HP

第5-039号



認定 浄住寺

元禄10年(1697)創建の本堂とその後方に位牌堂、開山堂、寿塔が並ぶ。一連の建物は、京都市内には数少ない黄檗宗を代表するもので、特に開山堂と寿塔は黄檗宗寺院の特色をよく残している。

文

第6-025号



認定 大原野神社

京都盆地を望む丘陵地にある神社。周辺には里山が広がり神社のバッファゾーンを形成している。綺麗に整備された竹林もあり、竹穂垣が美しい小径が整備されている。神社の境内は殿上人が遊んだ昔をしのぶことができる。

文 HP

第8-024号



認定 五社神社

茅葺き屋根と楠の大木が印象的な神社。神事芸能などの風習や、明治以前の神仏習合の様子をよく残している。本殿は文化6年(1809)に建てられ、奥行きに比べ間口が広く、平面形式や構造が独特である。

文

第8-029号



認定 緑々荘

大原野神社の社家を鉄筋コンクリート造の建物の上に移築した。茅葺き屋根が特徴である。

第9-019号



認定 谷岡家 (レストラン スポタネ)

明治に建てられた住宅で、屋久杉などが使われている。昔の間取りのままレストラン兼住宅として使っており、このまま維持継承して後世に伝えたい。

HP

第9-045号



ごうくら 郷倉

平安京遷都後、榎原近郊の十二郷に年貢米等が收藏される郷倉が建立されたのが起源。榎原は山陰街道きっての物資集積地であり、明治になり郷倉が村に下賜されると、米等の集積場として活用された。他の郷倉はなくなり、現存する貴重なものである。

第3-020号



東川島自主防災部器具庫

本願寺西山別院の境内に建つ妻入り棧瓦葺きの平屋の木造建築物で、地域の防災意識の歴史を感じさせる建物である。向かい合って建つ数軒の古い木造の民家と一体となって町並みを形成している。

第3-024号



りゅうえんじ 龍淵寺

戦国時代の天正10年(1582)開山で、明智光秀公からいただいた土地で今も継承している。動乱の世に建立されて以来、今なお椋原の人々に「心のよりどころ」として存続しており、仏事があると檀家が先祖供養、平穩無事を感謝するため参拝される。

第3-025号



太田家

約170年前に建てられた典型的な庄屋式屋敷である。木造一階の母屋を中心に、表門脇の客殿や七福神の鬼瓦を置いた米蔵・衣装蔵、屋敷外の小川から取水する池泉鑑賞式の庭園など、都市近郊の農村の典型である景観を後世に伝える。

第4-017号



斉藤家

軒の深い下屋は袖壁があるのみで、柱が無く作業性の良い広い空間を確保している。また、厨子二階の左官は淡い空色で、虫籠窓の格子は左右異なるデザインになっており、縁取りされた青い色が魅力的である。

第5-010号



永谷家

集落に向かう道すがら現れる茅葺きの屋根。庭先から広がる畑と相まって、かつての農村の姿を今に伝えている。

第5-011号



岩崎家

瓦塀を巡らせた規模の大きな農家住宅である。屋敷構えの全体が道路から一目で見渡せることから散策する人の目を強く惹きつける建物である。

第5-037号



齋藤家

切妻造平入つし2階建てで、もっこう型の虫籠窓が備わっている。各所改修されているものの立派な本玄関を持ち、地域の農家住宅の歴史や景観を感じさせる。

第5-038号



正法寺

天平勝宝年間(749~757)に創建された寺院。応仁の乱で焼失したが、元和元年(1615)に再興された。東山を借景とした「鳥獣の石庭」を持ち、本堂には鎌倉時代の千手観音像が祀られている。

[文](#) [HP](#)

第6-042号



nests

大原野に残る農家住宅である。建物は改修され、現在は陶芸の工房と教室になっており、南向きの大きな窓は開放感と広い庭とのつながりも感じられ、うまく活用されている。

第14-011号

伏見区



かだのあずままる
認定 荷田春満旧宅

国学者荷田春満(かだのあずままる)の邸宅。住居として使われていた邸宅は平屋造で、書院や門などが残っている。

文

第1-062号



京都教育大学
まなびの森ミュージアム
認定 (旧陸軍第十九旅団司令部)

明治30年(1897)陸軍施設として建築。第19旅団司令部がおかれていた。近年、創建当時の姿に復元し、「まなびの森ミュージアム」として一般公開している。

HP

第1-063号



認定 小西家

木造中2階建ての主屋、離れ、道具蔵、米蔵からなる。座敷の趣きのある意匠材料や、土間と中2階の見応えのある梁組など質の高い建築物。

景

第1-064号



認定 瑞光寺

境内入口にある萱葺きの山門を潜ると本堂の萱葺き屋根が目に入る。その屋根のシルエットは、この寺を再興した元政上人の衣姿を彷彿させる。

景 HP

第1-066号



認定 聖母女学院本館

明治41年(1908)に旧帝国陸軍16師団本部として建築。内外とも建築当初のままに残っており、外観や内部デザインなどは見る者を魅了する。

文 HP

第1-067号



認定 宝湯

昭和6年(1931)に竣工。木造モルタル造で、洋風建築という特異性を持ち、外観、脱衣場がほぼ建築時の姿を保っている貴重な建築物。

第1-068号



キリスト
認定 日本聖公会 桃山基督教会

昭和11年(1936)に建てられ、隣接する御香宮神社との調和が見事。平日は幼稚園児の歓声、日曜日には礼拝堂で聖歌の音が聞こえてくる。

HP

第1-070号



認定 長谷川家

築約130年の農家住宅である。約400坪の敷地には、主屋、表蔵、たつみ蔵などが建つ。主屋の屋根が特徴的で重厚な重ね妻となっている。

第1-071号



認定 山本家

鳥羽伏見の戦いで焼亡した後、明治29年(1896)に再建。商売の便のため表屋に接続して店蔵を構え、蔵前から奥を母屋とする変わった設計になっている。

景

第1-072号



認定 カトリック伏見教会

戦後、旧第十六師団跡地に設立された教会で、昭和26年には聖堂、伝道館(現第一伝道館)などが建設された。聖堂は、高野教会、西陣教会などを手掛けたウィリアム・ニーリー神父によるものと考えられる。

HP

第1-079号



認定 新居家

石積み的一段高い敷地に、洋館2階建てと和風2階建て邸宅が建つ。庭園には枯池があり、数寄屋造の離れが迫り出して建てられている。

文

第2-041号



認定 伊東家

伏見街道沿いの間口約8間の規模を持つ町家。厨子2階にも関わらず高さを感じさせる外観、年月を経て重みを増した木質感に圧倒される。

第2-042号



認定 西之大坊 大雲寺

天正18年(1590)深草山寶塔寺の仮本堂として建立。近年、中原正治氏により庭園を改造。茶室から見る庭園は幽玄の世界を満喫できる。

第2-044号

NEW



認定 布施家

水害に備え段蔵を構える外観である。明治5年建築の主屋の他、土蔵や菜種油業の生産空間が伝わる。台所には大きな「おくどさん」が残る。

第2-064号



認定 浮田家

明治中期に建築された建屋及び納屋から構成される。建屋が面する通りは、明治元年(1868)の付け替え工事まで木津川の堤防であり、建屋背面の高基礎がそのことを示す。水運で栄えた美豆の繁栄を偲ばせる。

第3-026号



認定 増田徳兵衛商店

延宝3年(1675)創業で、伏見の酒造会社の中でも古い歴史があり、建物も趣がある。鳥羽の作り道に面し、かつては京から西国へ向かう公家の中宿も務めたと伝わる。酒蔵も古いたずまいが少なくなってきた中、来る人を引き付ける魅力や雰囲気がある。

景 HP

第3-028号



認定 山田家

醍醐寺南門の向かいにあって、土塀に薬医門を構え、主屋の玄関に入母屋の式玄関を設ける。庭も比較的良好な状態が保たれており、醍醐寺周辺に点在する地域の歴史を感じることができる重要な建物のひとつである。

景

第3-030号



認定 松井家

洋風と和風の意匠を持った2階建ての建物で、スクラッチタイル調の外壁や木製建具が当時のまま残されている。玄関入口にかかる木札には、電話番号と思われる漢数字が記されており、当時の面影を残している。

文

第4-018号



認定 長尾天満宮

平安時代に創建された醍醐寺の北東山麓にある神社である。社殿は、文政4年(1821)に再建されたと伝わっている。深い緑の木々に囲まれた、まっすぐに延びる参道が印象的な美しい神社である。

文

第5-014号



認定 岡本家

元医院と伝わる建物で、壁の仕上げやハーフトーンパー風の意匠は、全体的にドイツ民家風となっている。応接室や元診療室と思われる部屋が残され医院建築の面影を今に伝えている。

第6-026号



認定 金札宮

伏見区最古とも伝わる神社。天太玉命(あめのふとだまのみこと)、天照大神(あまてらすおおみかみ)、倉稲魂神(うがのみたまのみこと)が祀られている。現在の社殿は嘉永元年(1848)に建てられた。

景 HP

第8-025号



認定 津田家

伏見南浜に建つ町家。津田家は両替商と炭屋を営み、伏見界わいの商いと生活を支えた。奥行きが深いトオリニワや広大な庭から当時の繁栄ぶりがうかがえる。

景

第8-049号



認定 藤田家

旧街道沿いにある旧家で、明治初期に建てられた。港の近くであるため、かつては旧街道沿いには、旅籠、飲み屋、ばくち場が点在していた。主屋は街道から後退した位置に建ち、玄関前で米を牛車に積み替え、京に運んだ。

文

第8-055号



認定 桃山温泉月見館

昭和の初めに建てられた木造3階建ての旅館。南面に大きな窓を設けており、観月の名所として名高い宇治川を眺めることができる。

文

第9-025号



認定 松本酒造

寛政3年(1791)に「澤屋」として創業した酒造会社。大正12年(1923)に名水を求めて現地に酒造場を増設した。新高瀬川越しに見える酒蔵や煉瓦煙突は地域の代表的な景観である。

文 景 HP

第10-039号



認定 萱尾神社

斉明天皇元年(655)創建。慶安3年(1650)に再建された本殿は、以前は檜皮葺きであったが、昭和36年(1961)に銅板葺きとなった。柱や虹梁には彩色が施されている。地域の氏神様として親しまれている。

文

第13-009号



井上治療院

昭和初期に建てられた元薬局の店舗兼用住宅。外観は洋風建築で、三連のアーチが特徴的な洗練された意匠となっている。

第1-060号



奥川家

土塀に囲まれて、土蔵や庭があり、立派な門がある豪農ともいべき農家造りの建物。現在は、土蔵と門が残っており、道行く人の心を和ませられる。

第1-061号



米市本家

古くは酒造りを営んでおり、その後米穀商の店舗として使った建物。現在は営業していないが、当時の看板などもそのまま掛けている。

第1-065号



にしむら亭

伏見稲荷大社山茶屋。二階建ての寄棟造りの建物と、西側にある木造平屋がある。特に平屋からの西方向への眺望は素晴らしい。

第1-069号



ランプ小屋

明治13年(1880)から大正10年(1921)まで走っていた旧東海道本線のランプ小屋として使用。石油など危険物を扱う建物であったため、堅牢な煉瓦で造られている。

HP

第1-077号



妙教寺

淀古城跡地に建てられた。本堂には鳥羽・伏見の戦いの際に砲弾が貫通した跡とその実砲弾が残る。四季折々の花も植えられている。

第2-045号



前田家納屋

昔は水害が多かったため、船が家に備え付けられている。現代では失われた生活の痕跡や知恵が残っており、羽束師地域の歴史、文化的な生活や地域性を象徴している。

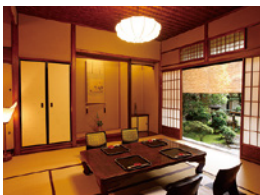
第2-060号



南家

明治に建築の伝統的な礎石立ちの住宅で、玄関の構えや軒が素敵である。門をくぐると目に入る植え込みは迫力がある。居間から縁側越しに見下ろす庭も、視線の高さと木々の配置が巧みに操作されている。

第2-061号



清和荘

昭和32年(1957)創業の三代続く料亭旅館で、昭和初期の風情が継承されている数寄屋造の建物と日本庭園が融合された広い敷地を持つ。墨染通りに面する大門をくぐると庭木のお出迎え、通りの騒音から隔離された別世界が広がる。

HP

第3-027号



駿河屋伏見稲荷支店

昭和初期創業の和菓子店である。昭和6年(1931)ごろの建築で、建物の外観や店の様子も建築当初から現在までほとんど変わらず、現在も薪を使って銅鍋で餡子や羊羹を炊くなど昔ながらの製法が守られている。

第4-019号



ひらそう 平宗酒店

創業明治34年(1901)の酒店である。建物は大正15年(1926)の建築で、出入口の木引戸や虫籠窓が残る外観をはじめ当時のままの状態を維持しており、京都伏見の酒の蔵元が多く軒を連ねる伏見南浜界隈の景観を形成している。

第4-020号



飯田家土塀と門

飯田家は、醍醐寺の寺侍を勤めた家柄である。主屋は数年前に建て替えられたものの、江戸期のものと思われる土塀と門は現存し、醍醐寺周辺の景観を形成している。

第4-036号



太田家

旧島本銀行と伝わるこの建物は、玄関に半円を描く石の階段や銅板に覆われた柱、さながら蔵のような窓枠が備わるなど当時の銀行の面影を伝えている。

第5-012号



しも村

門前の旧街道に面して建つ、昭和初期建築の手打ち蕎麦屋である。建物の2階には、建具に沿って欄干が回り、当時の様子を現在に伝える。

第5-013号



南里公民館

昭和25年(1950)、大工や左官などが多く住む職人町に建築された木造の公民館である。切妻造木造平屋建てに入母屋の玄関が突出している。町内で今でも大切に使われている。

第5-015号



尾崎家

大津街道沿いに建つ築90年、木造つし二階建て、切妻平入の農家住宅。田の字型の間取りと大きな梁が特徴的で、虫籠窓、煙出し屋根などが残され、当時の名残をとどめる地域の貴重な財産となっている。

第5-040号



山田家

主屋は、木造つし2階建て椽瓦葺きに煙出しを突き出している明治後期頃の建築。農家らしく広い土間を持ち、部屋は2列に6室あるなど、日本に多く見られる平面形式の一つと言われている。

第5-041号



大岩神社

岩を御神体とする神社。数多くの塚や石灯籠が立ち並び、大鳥居と小鳥居は、この神社と縁が深い堂本印象による寄進で、自らデザインした人物、動物、文様などが施された独特の意匠である。

第7-021号



魚三楼

江戸時代に創業した京料理の老舗。出格子に残る銃弾の痕は鳥羽伏見の戦いのもとのと伝わる。伏見界隈の歴史を伝える貴重な建物である。

景 HP

第9-020号



旧浜田家

明治期に建てられたと伝わる住宅。地下は当時としては珍しい鉄筋コンクリート造で、濠川(ごうかわ)に浮かぶ舟から地下室へ直接、出入りできる。

第9-021号



生田家

昭和11年(1936)に、住宅兼寮として建てられ、現在は、自宅兼宿泊施設として使用している。川沿いの良好な景観を創出している。

第9-046号



桃山いろは館

大正2年(1913)創業の旅館。多くの参拝客や修学旅行生を受け入れた点で、京都における近代遺産として歴史的・文化的価値があると考えられる。

第9-047号



小西家

現当主で20代目となる農家。清水谷家(しみずだにけ)に仕えた頃、御所への往復に使われた駕籠が残る。虫籠窓、煙出し、床の間、庭の風情など次の時代に残したい。

第10-036号



小篠家

昭和初期には青果商を営んでいた町家で、明治期の建築と思われる。入口土間の大和天井、ミセノマにあがる部分の巻藁石、トオリコフにはタイル張りのおくどさんや井戸などが残っており、座敷から見える庭には手水鉢や石灯籠、袖垣が配されている。

第10-062号



なめかわ 滑川家(旧橋本家)

昭和12年(1937)頃に建てられた前庭、主庭のある2階建て入母屋造りの住宅。1、2階とも主庭に面して座敷を設ける。中廊下を軸として、東側に玄関及び水廻り等、西側に座敷を含めた続き間が並ぶ。

第10-063号



北向山不動院

都を守護するために不動明王を北向きに安置したことが起こりとされている。現在の本堂は、江戸期に東山天皇の旧殿を移築したものだ。

HP

第11-024号



小栗栖八幡宮

本殿・拝殿・末社・神輿蔵・鳥居で構成される。創建は平安時代で、国宝・石清水八幡宮の分霊を奉遷されたと伝わる。氏子一同が維持・管理・諸行事の運営に携わりながら、世代を越えて八幡宮催事の継承に努めている。

第11-038号



深草山 圓妙院

宝塔寺中興円頓院日銀聖人が建立した塔頭六坊のひとつで、慶長2年(1597)に日銀の弟子円妙院日純を開祖とし、清雲坊と称した。本堂、書院、庫裡は同年に建立された。正徳5年(1715)に改修を行っている。

第13-010号



辻家

大正時代後期の建築物。通称「赤壁の辻医院」として知られ、母屋、土蔵等赤色の漆喰壁で施されている。屋根の瓦には四神瓦、座敷南側の庭は、手入れが行き届いた植栽と杉苔が心和ませる。

第13-011号



西川家

主屋と納屋のある農家住宅である。主屋の1階の壁は鎧板と黒漆喰で仕上げられ、大戸が目を引き、2階は漆喰と焼き板で仕上がる。戦後に、伝統的な建て方で建てられた現代の建物でありながら、醍醐寺北地域の歴史・文化を将来に伝える建物である。

第14-003号



林家

街道に面して主屋、中庭を挟んだ奥に離れが建つ職住一体の町家で、大正13年(1924)の建築である。主屋1階は店舗として開放的な造り、2階は伝統的な虫籠窓のある漆喰壁を有する。近年開発の進む街道沿いにおいて、醍醐寺門前町の歴史・文化を伝える貴重な建物である。

第14-010号



坂口家

かつて塩干物商を営んだ商家住宅。主屋は切妻平入りのつし2階建、伝統軸組工法で、一文字瓦、真壁、檜木造り、虫籠窓、面格子といった意匠が揃い、京町家と同様の形式を取る。ダイドコにはミセノマの様子を向う千本格子の建具が残り、往時の商家の佇まいが伝わる。

第14-016号

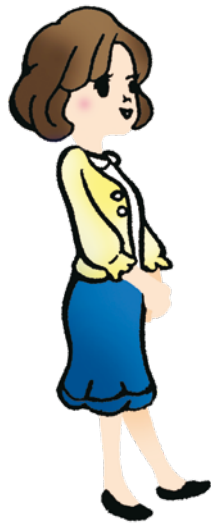


馬場染工場

大正2年(1913)の創業時、型を使い刷毛で着物を染める型友禅の工場として建てられた建物で、現在も昔ながらの技術を受け継ぎ手作業での型染めを行う。木造トラス構造の小屋組により、作業に必要な大空間を確保している。染色の伝統技術と共に、未来に残していきたい建物である。

HP

第14-017号



身近な“京都を彩る建物や庭園”の推薦をお待ちしています

この制度は京都の歴史・文化の象徴として残したい建物や庭園を募集、リスト化し、地域の誇りとして守っていこうというものです。

募集内容 京都の財産として残したいと思う建物や庭園

※自薦他薦は問いません。
※所有者への同意確認は、審査後、京都市が行います。

対象 世代を超えて継承され、京都の歴史や文化を象徴する建物や庭園

※おおむね50年以上経過したもの ※所在地が京都市内のもの
※国・地方公共団体が所有のものは除きます。

応募資格・条件

京都市内に在住、通勤又は通学されている20歳以上の方

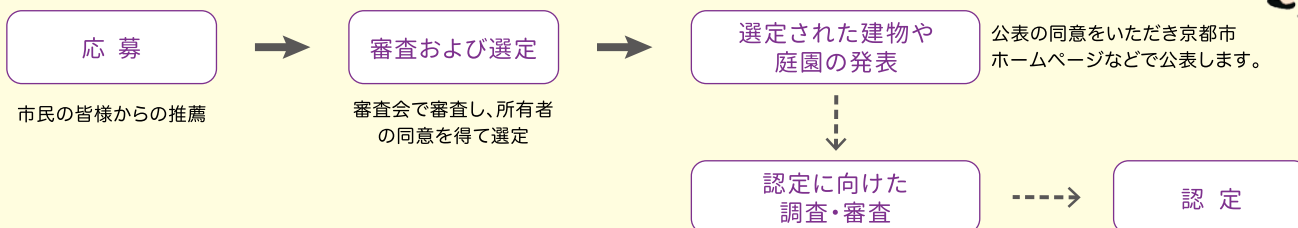
応募方法

所定の応募用紙に必要事項を御記入のうえ郵便、電子メール又は持参にて御提出ください。
(FAXでの応募は受け付けておりません。)

※応募用紙は文化財保護課で配布しています。
※ホームページ (<https://kyoto-irodoru.city.kyoto.lg.jp/>) からダウンロードできます。

詳しくは応募用紙を御覧ください

応募からの流れ



「スマートフォンからも簡単に応募いただけます！」

写真もスマートフォンで撮影してアップロードできます。ぜひ御利用ください。

<https://www.kyoto-irodoru.city.kyoto.lg.jp/mobile/clipmail/oubu.html>



問合せ先

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488 分庁舎地下1階
京都市 文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課

☎ 075-222-3130

🌐 <https://kyoto-irodoru.city.kyoto.lg.jp/>

✉ bunka-hogo@city.kyoto.lg.jp

